

フジフィルム スクエア

2020年度

活動報告書



2021

FUJIFILM SQUARE

フジフィルム スクエアのこれまでの活動

富士フィルムは創業以来「写真文化」を守り育てるため、写真の素晴らしさ、楽しさ、感動、そして写真を残す大切さを伝える活動を一貫して行ってきました。開館以来、延べ1,500回におよぶ写真展を開催し、700万人以上の幅広い年代の方々にご来館いただいています*1。フジフィルム スクエアに関連する活動の歴史をご紹介します。

※1 2021年3月時点



1957

富士フォトサロン開館

プロ、アマチュア問わず優れた作品を発表する場として、フジフィルム スクエアの前身となる富士フォトサロンを銀座に開館しました。

2007

フジフィルム スクエア開館

東京ミッドタウン(六本木)への本社移転と同時に、複合型ショールーム「フジフィルム スクエア」を開館しました。「富士フォトサロン」から改名した「富士フィルムフォトサロン」に加え、写真の歴史とカメラの進化を学べる「写真歴史博物館」等を併設。



2014

フジフィルム・フォトコレクション収蔵

創立80周年を機に、幕末・明治から現代に至る日本の写真史を飾る101人の写真家選りすぐりの1枚を、「フジフィルム・フォトコレクション」として収蔵。これらはフジフィルム スクエアをはじめ全国の美術館でも展示され、その芸術的価値をお伝えするとともに、日本写真史の体系的な理解に役立てていただいています。

2017

開館10周年記念写真展の開催

フジフィルム スクエアの開館10周年を記念し、写真の「歴史」・「今」・「明日」という3つのテーマで、「写真の過去・現在・未来」を発信する12の特別企画展を1年間にわたり開催しました。

10th
ANNIVERSARY



2018

メセナアワード2018

優秀賞「瞬間の芸術賞」受賞

フジフィルム スクエアの活動が、企業メセナ協議会*2が主催するメセナアワード2018 優秀賞「瞬間の芸術賞」を受賞。長年にわたり、写真作品を発表、鑑賞する場を提供し、人と人の心がつながる感動体験を広め、写真文化の普及と発展に貢献していること、時代を超える価値を持つ貴重な作品の展示機会を作り、記録性や芸術性という写真の本質を、時代に合った内容で発信し、写真を文化財として継承・育成する可能性を追求し続けていることを評価いただきました。

※2 企業による芸術文化支援(メセナ)活動の活性化を目的に1990年に設立された、日本で唯一のメセナ専門の中間支援機関

「こころ彩るところ」フジフィルム スクエアは、
時代の変化に適した形で、写真文化を未来へと絶えず、守り育み続けます。

施設コンセプト



「写真の持つ力に感動しました」「思わず私も撮りたくなりました」
訪れたお客様から、そんなたくさんのお声をいただいています。

フジフィルム スクエアはこれからも、
価値ある作品との出会いを通じて、
人と人が心豊かにつながる場でありたいと考えています。

例えば、見応えあるオリジナルプリントを、思う存分鑑賞する。
出展者の、作品作りの背景や意図を理解する。
写真家の心に共感し、一緒に見ている人と気持ちを分かち合う。
歴代のカメラや写真の歴史を知り、好奇心の羽根を広げる。

この場所で生まれる出会いや感動で、お客様の心が鮮やかに彩られ、
その体験が色褪せずに記憶に残ること。それがフジフィルム スクエアの願いです。

“こころ彩るところ”

私たちはこの言葉を胸に、さまざまな活動を通じて写真の素晴らしさや楽しさ、
そして残す大切さを伝え、写真文化の発展と心豊かな社会の実現に貢献していきます。

FUJIFILM SQUARE

ご挨拶

フジフィルム スクエアは、富士フィルム株式会社東京ミッドタウン(東京都港区)本社にある複合型ショールームです。優れた作品の発表の場「富士フィルムフォトサロン」、写真の歴史とカメラの進化を学べる「写真歴史博物館」、最新の写真関連商品を試せる「タッチ フジフィルム」、化粧品・サプリメントなどの当社ヘルスケア商品を取り揃えた直営店「ASTALIFT ROPPONGI(フジフィルム ヘルスケアショップ)」で構成されています。

2020年初頭から新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、世界が未曾有の危機に直面しました。影響を受けている方々に心よりお見舞い申し上げるとともに、医療関係者の方々に敬意と感謝を申し上げます。

フジフィルム スクエアは、ご来館者、出展者とスタッフの安全を確保することを最優先とし、2020年は2月28日から6月8日まで臨時休館しました。その後、再開にあたって、「3密」を招きやすいトークイベント等の中止などを含め、未知・未体験の危機対応の中で、従来以上に安心安全な環境づくりを目指しての運営となりました。そのような手探りの状況の中、2020年度は75本の写真展を開催し、約22万人の方にご来館いただきました。安心して写真を鑑賞できる環境づくりにご協力いただきました出展者、来館者の皆様に深く感謝申し上げます。

再開後、ご来館の皆様からは「コロナ禍の中でも写真展を開催してくれてありがとう」「こんな時だからこそ写真展から得られる感動が大きい」というお言葉を数多くいただきました。コロナ禍で先が見えず厳しい毎日の中でも、フジフィルム スクエアには笑顔で写真をご覧になっているご来館の皆様の姿があり、当社としても「写真が人を励ます力を持つ」ことを再認識する機会となりました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う活動自粛により、人と人とのFace to Faceの交流機会が減少し、社会や生活環境が大きく変化しています。しかし、写真・映像の入力から出力まで一貫して商品を提供している当社に、写真文化を守る社会的使命があることに変わりはありません。富士フィルムは、新しい生活様式(ニューノーマル)の中で、健全で持続的な社会を実現するために、心の支えや生きがいをもたらすコミュニケーションが必要になると考えます。これからも、フジフィルム スクエアでの感動を呼び起こす写真展示や、思い出をカタチにする写真製品の提供等を通じ、心の豊かさ、人々のつながりに貢献していきます。

CONTENTS

企画写真展レポート

FUJIFILM SQUARE 企画写真展

01	田沼武能写真展「わが心の東京」	・・・ 06
02	「MJ」 ～ステージ・オブ・マイケル・ジャクソン～	・・・ 08
03	「ハッブル宇宙望遠鏡 宇宙の神秘を紐解く30年」	・・・ 10
04	『海から見たニッポン』 (1) 「海流が育むいのち」～黒潮の力、親潮の恵み～ 阿部秀樹・鍵井靖章・佐藤 輝・関 勝則・高久 至 (2) 「is Blue」 鍵井靖章×木村文乃	・・・ 12
05	「平成・東京・スナップLOVE」 ポートフォリオレビュー/ファイナル・セレクション展 ■Vol.1 山端拓哉「ロシア語日記」 ■Vol.2 小西拓良「笹舟」 ■Vol.3 阪東美音「メロウ」 ■Vol.4 前川朋子「涙での灯火(ともしび)」	・・・ 14

富士フィルムフォトサロン

若手写真家応援プロジェクト[写真家たちの新しい物語]

06	藍沙 写真展「東京の野鳥たち」	・・・ 16
07	花井 達 写真展「祝!結婚」	・・・ 17
08	熊木 理 写真展「砂の形 -Lost on a sand planet-	・・・ 18
09	藤村 里木写真展「鉄塔風景」	・・・ 19
10	大竹英洋写真展「ノースウッズ-生命を与える大地-」	・・・ 20
11	鶴川真由子写真展「LAUNDROMAT」	・・・ 21
12	萩原 れいこ写真展「Heart of Nature」	・・・ 22

富士フィルム 企画写真展

13	PREMIUM PRINTで飾る「フォトアドバイス」 Web写真教室作品展	・・・ 23
14	FILM/DIGITAL それぞれのACROS ～14の車輪と7つの暗い部屋～	
15	「鮮やかなモノクローム」 ～プロフェッショナルが描く黑白の世界～	
16	美都写真展「SHONAN めもあやに」 ～ brilliant colors 湘南 surf days ～	・・・ 24
17	PHOTO with SMILE	
18	「“また行きたい”ニッポン旅」	
19	富士フィルム PREMIUM PRINT による 「こだわり花クラブ」写真展	・・・ 25
20	井津建郎写真展「ボンベイ 鎮魂歌 -POMPEII/REQUIEM-	
21	instax“チェキ”写真展「instax SQUARE SQ1」GALLERY ～スクエアなら私の世界はこんなにも広い。～	
22	FUJIFILM GFX/Xシリーズ 新製品「GFX100S」「X-E4」 「XF70-300mmF4-5.6 R LM OIS WR」発表記念作品展	・・・ 26
23	WALL DECOR BY CREATORS (ウォールデコ バイ クリエイターズ) ～写真家・クリエイター7人がおすすめする、お部屋を飾るウォールデコ～	
24	富士フィルム写真救済プロジェクト 「私たちがやってきたこと。そして、わかったこと。」	

FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展

25	「100年前にカワセミを撮った男・下村兼史 ～日本最初の野鳥生態写真家～」	・・・ 27
26	音楽を奏でる写真たち 木之下 晃「世界の音楽家」	・・・ 28
27	ここに人間味あふれる写真家があります。 秋山亮二「津軽・聊爾(りょうじ)先生行状記」	・・・ 29

新型コロナウイルス感染症に対する取り組み

写真展開催リスト

当社が主催する企画展38本(写真家たちの新しい物語7本、写真歴史博物館の企画写真展3本含む)、公募展37本、合計75本

施設概要レポート

施設案内

・・・ 30

・・・ 32

・・・ 36

・・・ 38

田沼武能写真展「わが心の東京」

2020年6月9日(火)～7月9日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・スペース2・ミニギャラリー



展示作品点数
102点

クレジット
主催:富士フィルム株式会社、朝日新聞社
後援:港区教育委員会
企画:株式会社クレヴィス
プリント制作:写真弘社

販売物
・『東京わが残像1948-1964』(クレヴィス)
・『時代を刻んだ貌』(クレヴィス)
・『未来へ架ける 世界の子ども』(クレヴィス)

メディア掲載記事



朝日新聞 朝刊(東京、7月1日◎)

来館者数
合計22,753人(31日間)

展示概要

1929年、東京・浅草の営業写真館に生まれた田沼武能(たぬまたけよし)氏は、小説家や画家などのポートレート、武蔵野、東京の下町風景、子どもの世界、ヨーロッパ古寺巡礼、戦争や自然災害に苦しむ難民キャンプの子どもたちなど、実に多くの対象にレンズを向けて、写真表現の可能性にエネルギーを注ぎ続けて70年余、今なお現役で活躍されています。

田沼氏の基底にあるものは、生まれ育った「東京」の原風景ですが、報道写真家を志した原点は、大空襲の炎を辛くもかいくぐり、一夜にして灰塵と化したわが街東京を目の当たりにした16歳の生々しい記憶にあります。一歩ずつ活気を取り戻していく街の路地には、必ず失意の底から立ち上がり必死に生き抜こうとする人々のたくましい姿があり、氏が撮り続けてきた大都市東京の復興と発展は、常にそこに息づく「人の営み」と表裏をなしています。

本展では、田沼氏とそのファインダーを通して真摯な眼差しで見つめ続けた「人」を軸に、「戦後東京」の復興、「大都市東京」の発展・変貌をとら

えた力作をセレクトし、半生を振り返りました。

田沼武能氏は、2019年11月3日、写真の分野では初めてとなる文化勲章を受章されました。この受章は、写真家として独自の世界を確立し、現役を貫いて精力的に作家活動を続けるとともに、写真界や大学において後進の育成や写真家の地位向上にも尽力され、斯界の発展向上に貢献されてきたことによるものです。また同様の理由で、2019年度の朝日賞特別賞も受賞されました。

配布物

来館記念めんこ



実施レポート

新型コロナウイルス対策のため、2020年2月28日から6月8日102日間、臨時休館した後の再開プログラムとなった写真展です。戦後の焼け野原から逞しく立ち直り、発展していく東京の様を捉え続けた20余年間の力作が揃いました。当時を知る来館者からは、ご自身の思い出と重なる時代の写真を懐かしむ共感の声があがりました。若い世代の方々からは「モノクロ写真の昔の日常のスナップを見て、今の自分の日常もいとおもしろいものだなと気が付きました」等、新たな気づきを得たという声が目立ちました。また、写真の記録の価値を実感したという感想も多くいただきました。

田沼氏も生まれ育った東京がテーマだけに思い入れの強い写真が多く、毎日のように在廊されました。「文化勲章」を受章された同氏に既知の方々も改めてお祝いに来館され、かつての下町の子供の写真をバックにご一緒に記念撮影されていました。また、館内で販売された写真集には田沼氏が丁寧に1冊1冊サインをされるなど、田沼氏と来館者との温かい交流の姿が印象的でした。田沼氏の写真を掲載した来館記念品の「めんこ」も来館者に喜ばれました。

一方、フジフィルム スクエアとしては、休館後の運営にあたり、かつて経験したことのない「防疫対策」を手探りで準備し、来館者、出展者、スタッフいずれにとっても安全で安心な運営を心がけました。

おかげさまで、再開を心待ちにされていた写真ファンの方々の一様に喜んでいただく様子を垣間見るとともに、外出自粛要請の中「文化的活動」に渴望感を感じておられた方々から感動の言葉をいただくことができました。

来館者の声

再開をずっと待っていました。コロナ禍で大変な時にもかかわらず素晴らしい展示でした。

こんな時だからこそ写真展が心に響く。

入るとすぐにあるモノクロ写真の展示が当時の粋な時代背景を感じさせてくれてとても素敵でした。

懐かしい写真を見ることができて来た甲斐がありました。

戦後日本人の貴重な記録だと思う。見ていて涙が出ます。

特に子供の表情に感動した。

改めて東京のことを好きになりました。

懐かしさと哀しさで、見てしまいました。もう絶対に会えない人のお写真も見れて良かったです。

田沼さんの写真展を楽しみにしていました。何度も見たい内容です。楽しめました。

田沼さんの写真を見て自分の子供時代を思い出した。

とても興味深く、印象に残る写真をたくさん見られて良かったです。

無料でこのような企画展を見ることができて幸せです。



「MJ」～ステージ・オブ・マイケル・ジャクソン～

2020年7月10日(金)～7月30日(木)

富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・スペース2・ミニギャラリー

写真 | バッド・ワールドツアー
Mirrorpix/Allo

展示作品点数

80点

クレジット

主催:富士フィルム株式会社
監修:西寺郷太(NONA REEVES)
企画:株式会社クレヴィス
プリント制作:プロラボ クリエイト

販売物

・『MJ ～ステージ・オブ・マイケル・ジャクソン～』(クレヴィス)

主要メディア掲載

- ・新聞
読売新聞(東京、7月10日)、東京新聞(7月16日)
- ・その他雑誌
週刊女性(7月21日)
- ・ウェブサイト
朝日新聞デジタル&M、All About、PRESIDENT Online、東洋経済オンライン、読売新聞オンライン、LINE NEWS(ラインニュース)、livedoorニュース、Yahoo!ニュース、グノシー、antenna

来館者数

合計17,841人(21日間)



写真展告知リーフレット(4種)

展示概要

マイケル・ジャクソンは、没後10年をすぎた今日も「史上最も成功したエンターテイナー」として語り継がれ、リアルタイムでの活動を知らない若い世代を含む多くのファンを魅了し続けています。

5人兄弟グループ「ジャクソン5」のシンガーとしての4曲連続シングル・ヒット・チャート首位獲得の記録や、ソロ・アーティストとして1982年に発表したアルバム《スリラー》の全米チャート37週連続1位、第26回グラミー賞8部門受賞という音楽の世界での偉業は傑出したものです。

また「プロモーション・ビデオ」と呼ばれ、単なる宣伝材料として捉えられていた音楽ビデオを「ショート・フィルム」(短い映画)と新たに定義し、芸術作品として昇華させたことも彼が生み出した大きな革命のひとつで、1980年代から1990年代音楽業界は最高潮を迎えました。

本展は、ミュージシャンの西寺郷太氏(NONA REEVES)監修のもと、マイケル・ジャクソンの代表作の写真と、世界中のファンを熱狂させた3つのワールドツアーでのライブ・パフォーマンスの写真を大きく引き伸ばした

銀写真プリントの展示を通して、映像と写真が今日までの音楽の発展に果たした役割と、その礎を築いた彼の功績を考察することをテーマに構成しました。

実施レポート

マイケル・ジャクソンが映像という視覚的な要素を楽曲と見事に調和・融合させた、1980年代から1990年代という時期が、今日のミュージックシーンのベースを築いたということを、写真を通じて感じ取っていただく展示としました。

コロナ禍に加え連日雨天の続く不順な天候にもかかわらず、会期中21日間の来館者は17,841人(850人/日)と想定を上回りました。年代別には40代、50代がそれぞれ約30%、次が60代約15%、約6割が女性と、特にリアルタイムでマイケル・ジャクソンを聴いていた世代の熱い支持をいただきました。

会場では、本展監修の西寺郷太氏が選曲したマイケル・ジャクソンの曲をBGMとして常時ON AIRし、写真展名と同名の写真集も同時に刊行され、会場での販売が好評を博しました。

写真を通じてマイケル・ジャクソンが活躍した時代を体験した、という声が多く寄せられました。また、大きく引き伸ばした銀写真プリントの展示を存分に堪能していただく機会となりました。

今後もミュージシャンやタレントの写真展にチャレンジし、ファンの方々に写真に親んでいただく機会を作りたいと考えています。

来館者の声

ミュージシャンの写真は生命力があり見応えがありました。

「MJ」を見るために初めて訪れました。予想以上に素晴らしい展示で大変感動いたしました。このような催しを企業メセナとして無料で実施いただいたこと、マイケルファンとして心より感謝申し上げます。

大きな写真の迫力に圧倒され涙が出ました。

躍動感あふれる素晴らしい写真の数々に心奪われました。

マイケル・ジャクソン最高!今日で5回目。会社の人にも伝えました。3人来ました。

マイケル・ジャクソンの大ファンで最終日含めて三回来ました。

マイケルの写真展素晴らしいです。正直ここまで良いとは思ってませんでした。

洗練されたギャラリーでマイケルの美しい写真と音楽を静かに楽しむことができ、良い時間を過ごしました。

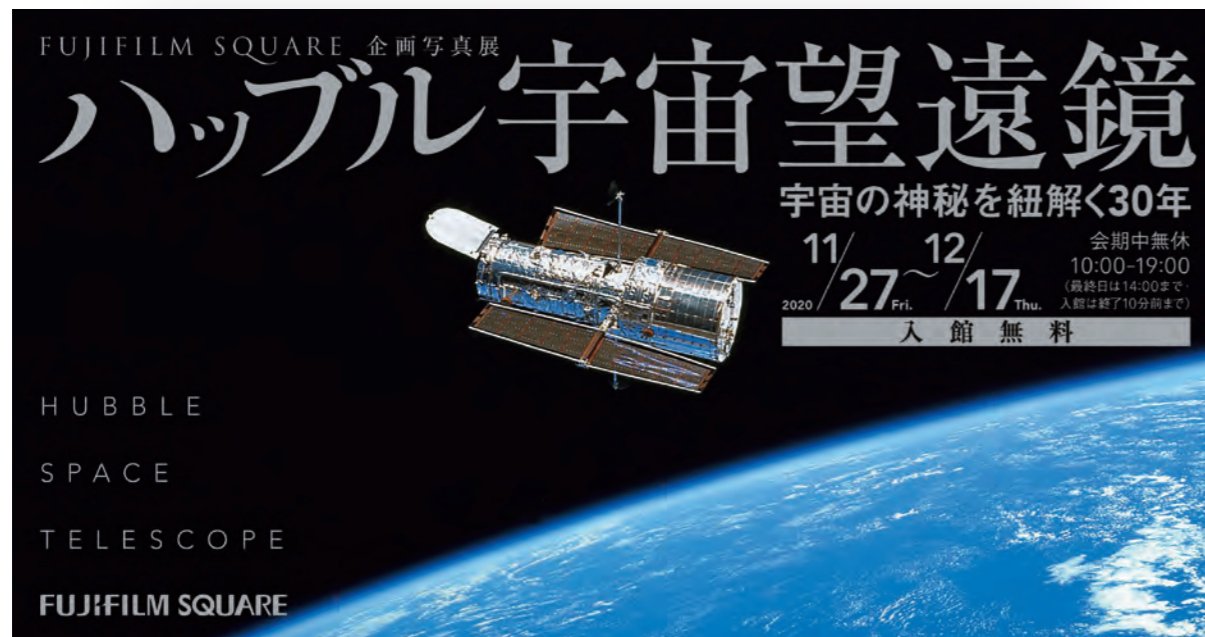
バックで彼の曲がずっと流れていて、ファンとしても幸せな時間を過ごさせてもらいました。

マイケルの曲が良かった。写真も色々あってコンサートへ行った気分させてくれました。



本展を監修した西寺郷太氏

「ハッブル宇宙望遠鏡 宇宙の神秘を紐解く30年」

2020年11月27日(金)–12月17日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・スペース2・ミニギャラリー

展示概要

1990年、高度約550kmの宇宙空間に設置されたハッブル宇宙望遠鏡が、2020年に30周年を迎え、現在も地球を周回しながら観測を続けています。同望遠鏡は口径2.4mの鏡を搭載した反射望遠鏡で、可視光(ヒトの目で見える光)で宇宙を詳しく探る初の宇宙望遠鏡です。地球の大気や天候の影響を受けずに宇宙の観測を行うことで、星雲や銀河の姿を詳細に写し出します。その観測データは、さまざまな宇宙の謎を解き明かすための情報を天文学者に与える一方、その数々の美しい画像は長年にわたり一般の人々を魅了し続け、それまで手の届かなかった宇宙の存在を身近なものにしてくれました。

私たちが生きる「天の川銀河」の中で、星々が誕生する時、最期を迎える時に見ることができる美しい星雲や、「天の川銀河」の外に存在する何千億もの数のさまざまな形の銀河や銀河同士の衝突の様子など、高精細に写し出す画像は目を奪われるものばかりです。

本展では、打ち上げ30周年に合わせ、その象徴的な画像から最新画像まで、鑑賞性にも優れた天体写真を選びすぎり、迫力ある大型の高品位銀写真プリントに仕上げ展示し、その美しさをご体感いただく貴重な機会となりました。

展示作品点数

126点

クレジット

主催:富士フィルム株式会社
監修:大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台 副台長 渡部潤一
協力:大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台
後援:港区教育委員会
企画制作:株式会社クレヴィス
企画協力:サイエンスライター 岡本典明
プリント制作:プロラボ クリエイト

併催イベント

フォトスポットで記念撮影、その場でもちろん「記念ポストカード」プレゼント
※会期中随時

販売物

- ・『138億年 宇宙の旅』(クレヴィス)
- ・『ハッブル宇宙望遠鏡 探究と発見のまなざし EYES OF HUBBLE』(クレヴィス)
- ・ポストカード(15種)
- ・A4クリアファイル(4種)
- ・2021カレンダー“太陽・月・星のこよみ”

Web公開動画

写真展監修 国立天文台副台長 渡部潤一氏による写真展開催記念動画
「ハッブル宇宙望遠鏡を語る」



主要メディア掲載

- ・新聞
東京新聞(11月26日)
- ・ウェブサイト
MdN Design Interactive、グノシー、livedoorニュース、朝日新聞デジタル& M、PRESIDENT Online、読売新聞オンライン、東洋経済オンライン、LINE NEWS(ラインニュース)、Yahoo!ニュース

来館者数

合計21,810人(21日間)

実施レポート

ハッブル宇宙望遠鏡が捉えた画像を大型の銀写真プリントに引き伸ばした美しい天体画像を見ようと、天文ファンから、若いカップル、家族連れまでの幅広い層が期間中合計21,810人(1,039人/日)来館しました。館内のアンケートでは、91%の方が「よかった」と回答されるなど、大変ご好評を得ました。

写真展の企画にあたり、展示内容に正確を期するため、2018年にNASA60周年に合わせて開催した写真展「138億年大いなる宇宙の旅」でもご協力いただいた国立天文台副台長 渡部潤一氏に今回も写真展の監修を、またサイエンスライターの岡本典明氏に写真展の企画にご協力をいただきました。前回は写真展をより深くご理解いただくため渡部氏による記念講演会を開催しましたが、今回は残念ながらコロナ禍のため見送り、代わりに同氏による34分にわたる解説動画を制作して会場内とウェブサイトで公開、再生回数は3,200回を超えました(2021年3月31日現在)。

さらに天体や宇宙への関心を深めていただくため、本展にあわせて発刊された写真集『ハッブル宇宙望遠鏡 探究と発見のまなざし EYES OF HUBBLE』(クレヴィス)や月光天文台が発行する「天文カレンダー」なども館内で販売しました。また、当社事業部と協力し、ご来館の記念として、館内でハッブル宇宙望遠鏡の写真やバックに記念撮影した画像を富士フィルムの高画質インクジェットプリンターFrontier DE100を使い即時「記念ポストカード」に仕上げるサービスを行い、人気を呼びました。

フジフィルム スクエアは、心に残る美しい風景写真や写真の記録的価値の大切さに加え、科学技術の発展へ写真や映像が果たす役割にも関心を持っていただくことで、知的好奇心の喚起につなげるべく、今後も幅広いジャンルの写真展を開催いたします。

来館者の声

星の数がたくさんあることがよくわかった。
赤外線と普通の写真ですごく違いがあった。

大きな写真で鮮やかな星雲の姿を見ることができて、素敵でした。

展示、写真、すばらしかったです。ハッブル宇宙望遠鏡展を見に来たのは二回目です。ありがとうございます。

ハッブル宇宙望遠鏡のことがよくわかったし、写真がとてもきれいだった。

宇宙への興味が湧いて良かった。今晩は夜空を見えます。

宇宙飛行士になったら自分の目で見てみたいです。

見たことのない星雲や、銀河などいろいろ見ることができ、とても楽しかった。

宇宙の写真が好きなので楽しめました。

展示作品の撮影が可能という寛大な計らいに感謝。

記念ポストカードを作っていたくださり良かったです。

思っていた以上に良かったので、友人に勧めました。ありがとうございました。

宇宙が広いことを感じて感動しました。



『海から見たニッポン』

(1)「海流が育むいのち」～黒潮の力、親潮の恵み～ (2)「is Blue」

■阿部秀樹・鍵井靖章・佐藤輝・関勝則・高久至

■鍵井靖章×木村文乃

2021年3月12日(金)～4月1日(木)

(1)富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・スペース2・ミニギャラリー
(2)富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3



展示作品点数
(1)104点 (2)28点

クレジット
主催:富士フィルム株式会社
後援:岩手県宮古市、岩手県立水産科学館ウォリヤス、大阪市教育委員会、重茂漁業協同組合、鹿児島県屋久島町、北海道羅臼町、港区教育委員会、宮古漁業協同組合、羅臼漁業協同組合、和歌山県
監修:工藤孝浩(日本魚類学会)
協力:赤松ダイバーズ、尾鷲シードリーム、串本ダイビングパーク、後藤康文(後藤泌尿器科皮膚科医院)、知床ダイビング企画、須江ダイビングセンター、潜水屋DAIKI、ダイビングショップ NANA、南紀シーマンズクラブ、日高ダイビングセンター、pole pole@sea、みちのくダイビング Rias、宮城ダイビングサービス ハイブリッジ、屋久島ダイビングライフ
企画:高橋佐智子(Shishmaref)(シシュマレフ)
アートディレクション:富沢祐二
プリント制作:プロラボ クリエイト

Web公開動画
本展出展の5人の水中写真家
阿部秀樹・鍵井靖章・佐藤輝・関勝則・高久至 各氏と
監修者 工藤孝浩氏(日本魚類学会)による写真展開催記念動画



配布物
小中学生向け写真展見どころガイド「海流が育むいのち 見どころガイド」
※会期中随時

主要メディア掲載

- ・新聞
朝日新聞夕刊(東京、3月23日)
- ・写真・カメラ紙(誌)
CAPA(4月号)、デジタルカメラマガジン(4月号)、日本カメラ(4月号)
- ・その他雑誌
Marine Diving(2月10日)、山と溪谷(2月15日)、定年時代 千葉版(3月1日)、Marine Diving(3月10日)、コマースフォト(3月15日)、つり人(3月25日)
- ・ウェブサイト
朝日新聞デジタル&M、MdN Design Interactive、グノシー、ZDNet Japan、東洋経済オンライン、PRESIDENT Online、読売新聞オンライン、LINE NEWS(ラインニュース)、CNET JAPAN、livedoorニュース

来館者数
合計16,964人(21日間)

展示概要

「海から見たニッポン」をテーマに、日本列島を取り巻く海のすがたを見つめ直す、2つの写真展を開催しました。

ひとつは、5人の水中写真家による「海流が育むいのち」。日本の自然の成り立ちや私たちの暮らしに大きな影響を与える海流「黒潮と親潮」に着目し、日本の海のすがた、豊かさを再認識していただくことを目指しました。水中写真のスペシャリストたちが継続的に観察し撮影してきた5つの海域の、逞しく力強い生きものたちの写真と、これからも大切にしていきたい美しい海中風景の写真を展示しました。元気な海のすがたを見ることを通じて、この豊かで健やかな海を持続していくにはどうしたらよいか、SDGs目標14「海の豊かさを守ろう」について考えるきっかけになるよう構成しました。

もうひとつは、水中写真家 鍵井靖章氏と、ダイビングを愛する女優 木村文乃氏による「is Blue」。お2人が巡った日本各地の海で、木村氏が撮影した生きものたちの愛らしいすがたや、鍵井氏がとらえたその土地ならではの魅力ある海中風景と木村氏の貴重な水中ポートレートを展示しました。生きものたちへの親近感や、水の中を浮遊する非日常の開放感を楽しめる写真展となりました。また、海洋ゴミ問題や震災から10年経った海を写真でレポートし、私たちの暮らしを取り巻く海的美しさと、そこにある危機について伝えました。

出展写真家
(1)阿部 秀樹、鍵井 靖章、佐藤 輝、関 勝則、高久 至
(2)鍵井靖章、木村文乃

実施レポート

富士フィルムは、サステナブルな社会の実現を目指し、多面的な環境への取り組みを行っており、フジフィルム スクエアでも、写真を通して環境について考えるきっかけを作りたいと考えています。今回、長年日本の海に潜り、海のすがたを見つめて来られた写真家・ダイビングガイド・海の研究者に協力を得て、海の美しい写真とSDGs・海の環境について紹介する写真展としました。

「海流が育むいのち」のキーワードは「黒潮」と「親潮」。「黒潮」のパートでは、高久氏が南国の鮮やかな生きものが豊富にいる「屋久島の海」を、阿部氏が地域によってさまざまな生きものがいる「紀伊半島沖」を、佐藤氏が都会に近い海ながら命の育みが沢山見られる「相模湾」を、魅力的な生きものたちを中心に展示。また「親潮」のパートでは、関氏が流氷や大型の生きものがくる「知床沖」を、鍵井氏が震災から10年間潜り続けた「三陸沖」を、特徴ある海の風景とともに紹介しました。

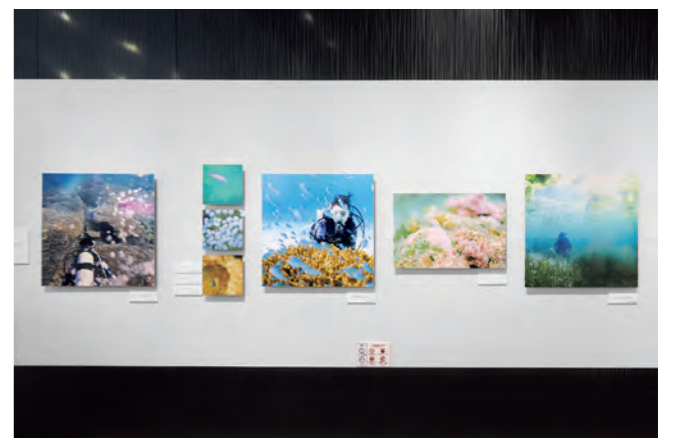
来館者は人気水中写真家5人のダイナミックで美しい写真を鑑賞し、それぞれの海域によって異なる海水の色、海底の様子、海の中で育まれる命の営みや生きものの生命力あふれる姿を堪能しました。

本展出展者と監修者が感じた環境問題への思いや環境保護活動について紹介するパネル展示や、トーク動画に対し、「動画や説明があると親しみやすく、わかりやすい」「写真展への理解が深まった」などの声をいただきました。また、小中学生向けに配布した「見どころガイド」で、若い世代にも海流や環境問題、水中写真について理解を深めていただきました。

「is Blue」では、木村氏が愛用する当社デジタルカメラ「X-T3」で撮影した優しい色合いでかわいらしい「生きものたち」と、鍵井氏が撮影した水中を楽しむように探索される「木村氏のポートレート写真」を展示しました。海の環境問題にも積極的に取り組む木村氏の作品に「is Blueでは環境について考えさせられました」等の声が寄せられました。

来館者の声

- 展示スペースの規模以上に見応えのある展示会でした。興味深い写真や説明が多くとても面白かったです。
- 海的美しさや世界観を感じることができる素敵な空間でした。またis Blueでは環境について考えさせられました。
- 海によって、こんなに色や生き物の映り方が違うことにビックリした。写真家によって色の出し方も違ってくるので、それも良かった。
- 写真が綺麗で海に潜りたくなった。
- 迫力もあり充実した展示で、何度も足を運びたいです。
- 静かでリラックスして見れました。
- 潮騒の音が良い。写真とともに心が癒やされた。
- 動画説明があり、親しみやすく分かりやすかった。
- 見応えがありました。木村さんの海のゴミの写真はショッキングな写真ですね。ゴミを減らさなければ、と思いました。



「平成・東京・スナップLOVE」ポートフォリオレビュー/ファイナル・セレクション展

■Vol.1 山端拓哉「ロシア語日記」 ■Vol.2 小西拓良「笹舟」 ■Vol.3 阪東美音「メロウ」 ■Vol.4 前川朋子「漕ぎの灯火(ともしび)」

■Vol.1 2020年8月28日(金)～9月10日(木) 富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3
 ■Vol.2 2020年9月11日(金)～9月24日(木) 富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3
 ■Vol.3 2020年10月2日(金)～10月15日(木) 富士フィルムフォトサロン 大阪
 ■Vol.4 2020年10月2日(金)～10月15日(木) 富士フィルムフォトサロン 大阪



開催の経緯

2019年にフジフィルム スクエアで開催した著名写真家11名による企画写真展「平成・東京・スナップLOVE」の併設イベントとして、同年6月から7月にかけて「ポートフォリオレビュー(作品講評会)」を開催しました。ポートフォリオレビューとは、写真展での作品の発表を目指す方たちの「ポートフォリオ(作品群)」にアドバイスするイベントです。フジフィルム スクエアは本イベントを選出された作品に対し「写真展開催の権利」をご提供する企画としました。審査を担当したのは、「平成・東京・スナップLOVE」出演作家のうち有元伸也、大西みつぐ、尾仲浩二、中藤毅彦、ハービー・山口、元田敬三(敬称略)の6名の写真家。一次選考会は、東京・大阪会場で計4日間にわたり実施。一般から公募した東京大阪合わせて78名の参加者のうち10名が一次審査会を通過し、7月の「公開最終選考会」で東京2名・大阪2名、計4名が選出されました。

- ・ポートフォリオレビュー 一次選考(非公開)
 - ①2019年6月22日(土) 14:00～17:00
 - ②2019年6月30日(日) 14:00～17:00
 - ③2019年7月5日(金) 18:00～21:00
 - ④2019年7月27日(土) 14:00～15:30
- ・ポートフォリオレビュー 最終選考会(公開)
 - 2019年7月7日(日) 14:00～15:15
 - 2019年7月27日(土) 15:30～15:45

展示概要

4人の作家には新たな才能を開花させ、将来の飛躍につなげていくために、講評・推薦いただいた写真家から直接、写真展の企画・構成・プリント制作などのアドバイスを受けながら、「個展開催のプロセス」を体験していただきました。いよいよ迎えた写真展では、アドバイスを心得てレベルアップした4名の作品が推薦写真家の熱意あふれるコメントと共に展示されました。

展示作品点数

- Vol.1 山端拓哉「ロシア語日記」31点
- Vol.2 小西拓良「笹舟」33点
- Vol.3 阪東美音「メロウ」16点
- Vol.4 前川朋子「漕ぎの灯火(ともしび)」35点

クレジット

主催:富士フィルム株式会社
 企画:コンタクト
 プリント制作:Vol.1 山端拓哉「ロシア語日記」手焼き
 Vol.2 小西拓良「笹舟」写真弘社
 Vol.3 阪東美音「メロウ」プロラボ クリエイト
 Vol.4 前川朋子「漕ぎの灯火(ともしび)」プロラボ クリエイト

販売物

- Vol.2 小西拓良「笹舟」写真展開催期間中
- ・『ZOO OF PHANTOMS』(自費出版)
- ・『日録-201507&08』、『日録-201509&10』(自費出版)

来館者数

- Vol.1 山端拓哉「ロシア語日記」合計10,431人(14日間)
- Vol.2 小西拓良「笹舟」合計9,770人(14日間)
- Vol.3 阪東美音「メロウ」合計5,855人(14日間)
- Vol.4 前川朋子「漕ぎの灯火(ともしび)」合計5,855人(14日間)

実施レポート

写真に真摯に向き合う4名それぞれの視点が彼らの可能性を提示し、写真の新たな可能性を来館者に見せてくれる機会となりました。そして、写真展開催のプロセスを体験し、「個展」を成し遂げた出展者は「気づき、自信、感動」の手ごたえを得ました。

Vol.1 山端拓哉「ロシア語日記」



山端氏は、将来性がある作品として選出されました。ネガフィルムから手焼きプリントの手法や効果的なプリントの見せ方を尾仲氏にご指導いただきました。山端氏ご自身もロシア語挨拶文を掲示したり、会場では作品がプリントされたフォトグッズTシャツを着用したりと、来館者とのコミュニケーションに工夫を凝らしていました。【山端氏の言葉】…自分で考えていた「ストレートな作品」ではなく、「一考させる作品」に魅力があると指導されたことは、大きな発見でした。また、一列に並べるだけでなく、流れのある配置が大事だと実感しました。一年を通して作品と向き合い、準備でき、大きな経験でした。

Vol.3 阪東美音「メロウ」



阪東氏は、不思議な持ち味で人を惹きつける点が評価されました。作品の世界観の効果的な見せ方を元田氏にご指導いただきました。写真専門学校で学んだ経験を活かし、写真セレクトや展示の場面で自分の意思を反映し、テンポよく構成を決めていました。出身専門学校にもPR。学生が授業の一環で来館するなど来館者にも広がりを持たせました。【阪東氏の言葉】…プロの方の展示制作の工程を体験でき、すぐたけになりました。広い場所で大きく伸ばして展示したかった希望がかない、とても感動し、また来館者が作品を深く見入っている姿を見て、励みになりました。

来館者の声(Vol.1～Vol.4)

仏映画を1本見た感じがかった。

タイトルが納得できる写真展だった。

自分が被写体の年齢だった時に感じていた「モヤモヤ」や、「やるせなさ」を思い出した。

この写真展を見たいと思って、初めて写真展に足を運んだ。

Vol.2 小西拓良「笹舟」



小西氏は、巧みな作品技術や見せ方が評価されました。ニュースリリースに掲載する広報用写真の選出のポイントや展示での見せ方などを中藤氏にご指導いただきました。ご自身の出身大学の広報部の取材を受ける等、PRに力を入れていました。【小西氏の言葉】…写真家の方々とお話ができ、自分の作家としての形が見えました。額装された自分の作品は、初めて見る感覚がありました。来館者の感想に触れ、自分で見えていない所に気づかされました。

Vol.4 前川朋子「漕ぎの灯火(ともしび)」



前川氏は、風景、人、ご自身の娘さんを良いトーンで撮っていることが評価されました。初めての写真展を、写真をセレクトする段階から展示まで、リモート会議も取り入れながら大西氏にご指導いただき、進めました。【前川氏の言葉】…作品を発表する前の準備期間では、写っているものに対する責任の重さに自問自答したり、写真のセレクトに試行錯誤を繰り返す日々でした。しかしそれを成長する機会へと変換し、今できる最大限の力を出し切る貴重な経験をさせていただいたことは、今後の活動の大きな励みとなりました。大変手厚くサポートいただき、安心して制作に臨めたことを関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。

写真への並々ならぬ向き合い方を感じ、刺激をもらった。

制服を着ている少女たちの自然な表情の中に人生や世間を諦観、達観しているようなものを感じました。

Twitterで開催を知って来ました。子供さんの表情がとても素敵でした。

藍沙 写真展「東京の野鳥たち」

2020年8月7日(金)～8月27日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3

「写真家たちの新しい物語」について

富士フィルムフォトサロン 東京は、若手写真家の皆様に写真展を行う意義や楽しみを見出し、写真文化の発展につなげることを目的に、2013年から年数回、若手写真家応援プロジェクト「写真家たちの新しい物語」を開催しています。当社は写真展を開催するためのプリントや制作費等を支援しています。

東京都内にもカワセミやチョウゲンボウをはじめ、さまざまな野鳥が暮らしています。そんな都内で生きる野鳥の姿を撮影する、当時まだ中学生の写真家 藍沙氏。

「公園や川など、東京にもいろいろな野鳥が暮らし、一生懸命生きています。しかし、ちょっとした工事や環境の変化でいなくなってしまうこともある。私の撮った写真で野鳥たちのかわいさや身近な自然の大切さを多くの人に知ってもらいたい」と藍沙氏は語っていました。

本写真展では、氏が愛用のX-T2とT3で捉えた、まるで人間のようにさまざまな表情を見せる野鳥たちの「綺麗」で「格好良い」姿をまとめ、来場者にお楽しみいただきました。

展示作品点数

25点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
企画：株式会社日本写真企画
プリント制作：プロラボ クリエイト

販売物

ポストカード10枚入(2種)

配布物

自由研究用リーフレット配布「身近な鳥のふしぎ」
※会期中随時

来館者数

合計14,385人(21日間)



Web公開動画

中学生動物写真家 藍沙氏によるギャラリートーク ムービー



来館者の声

貴重な写真を公開していただきありがとうございました。

お話が聞けて大変楽しかったです。

「東京の野鳥たち」第二弾を期待しています。

花井 達 写真展「祝!結婚」

2020年8月7日(金)～8月20日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース2

拝啓
盛夏の候 皆様にはますます清祥のことお喜び申し上げます
このたび 私共は赤々舎様へ協賛により
写真集を刊行することになりました

つまみとしては、皆様により一層のご指導を賜りたく
富士フィルムフォトサロンにてささやかなる写真展を催したい存じます
ご多用中 誠に恐縮ではございますが
ご来館の栄を賜りたく 謹んでご案内申し上げます

花井 達 謹白

富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト【写真家たちの新しい物語】
花井 達 写真展「祝!結婚」

東京 スペース2
会期変更：2020年8月7日(金)～20日(木)
10時～19時 (最終日16時まで、入館料710分前まで)

大阪 スペース1
2020年10月2日(金)～8日(木)
10時～19時 (最終日14時まで)

名古屋 スペース1・2
2020年10月30日(金)～11月5日(木)
10時～18時 (最終日14時まで)

花井達 写真集
『祝!結婚した』
2020年8月 発売予定
発行：赤々舎

入場無料・会期中無休
主催：富士フィルム株式会社
協力：赤々舎

大正時代以降、祝言に欧米様式を取り入れ、ブライダル産業として定着し、独特の進化を遂げている日本の結婚式。本写真展は、昔から変わることなく「一生懸命祝おうとする人たちの気持ち」にあふれた写真を、花井氏がブライダルフォトに携わってきた約12年間の撮影作品の中から選び抜き、構成しました。

「結婚式当日は、新郎新婦は緊張などで視界がととても狭く、あらゆる場面を見ることができません。だから、主役である新郎新婦ばかりでなくゲストにも目を向け、新郎新婦が見られなかったであろう結婚式の感動的な、またユーモラスな瞬間を撮影しています。」と語る花井氏。

結婚式で改めて認識する家族の絆、参列する子供たちの奇想天外な行動など、一切作り込みなく写したスナップショットの数々は、まるで写真の神様が舞い降りたような瞬間を捉えており、その今までに見たことがないような新しい瞬間が、来場者の微笑を誘う写真展となりました。



展示作品点数

40点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
協力：赤々舎
プリント制作：プロラボ クリエイト

販売物

『祝!結婚した』(赤々舎出版)

来館者数

合計9,408人(14日間)

Web公開動画

花井氏によるギャラリートーク ムービー



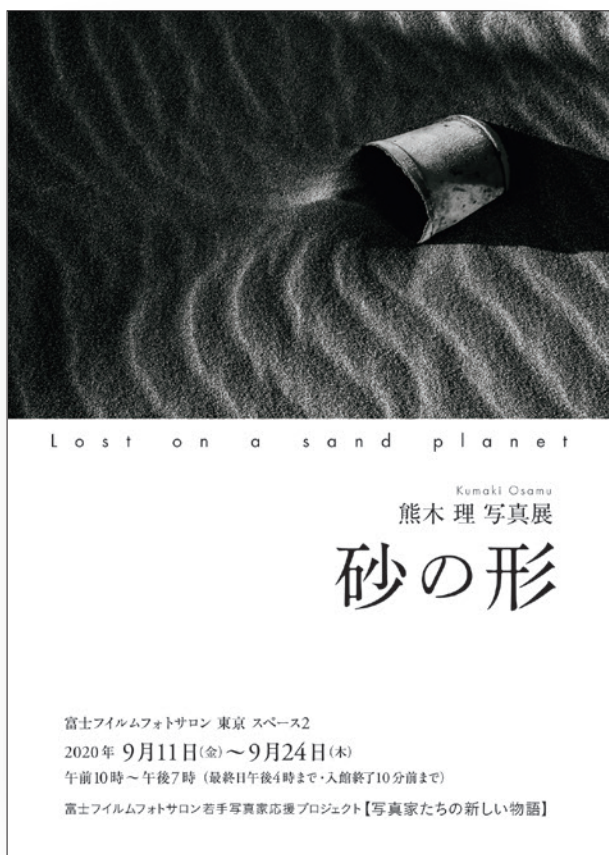
来館者の声

写真ってやっぱり良いなと思った。

祖母に会いたくなった。目頭が熱くなった。

花井さんとお話できて良かった。

熊木 理 写真展「砂の形 -Lost on a sand planet-」

2020年9月11日(金)～9月24日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京
スペース2

新潟市の青山海岸に広がる砂丘を、独自の視点でとらえた熊木理氏の初の個展。

砂や漂流物、雲、光が織りなす景色のなかの「つい見過ごしてしまう造形美」を、「赤外線カメラ」によるハイコントラストのモノクロ×デジタル写真で表現することであぶりだした作品を展示しました。

「初めて自由に写真を撮ったとき、ありふれた日常にも、美しさや驚き、発見に満ちていることに気づき、そのこと自体に感動を覚えました。写真は、特別なところに行かなくても、身の回りにある美しさ、面白さを教えてくれます。」と語る熊木氏。

まるで「砂の惑星」に迷い込んだかのような美しくも不思議な世界が、来場者を圧倒しました。



展示作品点数

53点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
後援：株式会社新潟フジカラー
企画：株式会社日本写真企画
プリント制作：写真弘社

販売物

会場限定フォトブック「砂の形 -Lost on a sand planet-」(自費出版)

来館者数

合計9,770人(14日間)

Web公開動画

熊木氏によるギャラリートークムービー



来館者の声

赤外線カメラ、面白かったです。また見たいです。

モノクロがしぶい。迫力がありません。

写真が綺麗でした。

藤村 里木写真展「鉄塔風景」

2020年10月30日(金)～11月12日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3

鉄塔は全国に約25万基あり、どこにでも見かける身近な存在ですが、無機質でいかつい出で立ちから自然の中では異質なものと捉えられ、風景写真を損なうものと一般的にされています。

あえて、そんな鉄塔と自然が織りなす風景にスポットをあて、撮影を続ける藤村里木氏。鉄塔が毎日電気を送り続けてくれるから、人々は平穏に暮らすことができる。そんな働き続ける鉄塔の存在に着目し、全国の鉄塔との出会いを求めて藤村氏は撮影を続けています。

本展では、全国で撮影された美しい自然や人の生活を感じられる風景と調和したたずむ鉄塔の姿を集め、写真展としました。藤村氏の鉄塔に対する優しい視線が作品に表れ、来場者も元気をもらえるような写真展となりました。



展示作品点数

25点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
企画：株式会社風景写真出版
プリント制作：プロラボ クリエイト

来館者数

合計12,790人(14日間)

Web公開動画

藤村氏によるギャラリートークムービー



来館者の声

実際の写真の迫力に打ちのめされました。
他の写真も是非見てみたいです！

点数が多く見応えがありました。

鉄塔風景の第二弾を期待しています。

2020年11月13日(金)–

11月26日(木)

富士フィルムフォトサロン 東京
スペース2

大竹英洋写真展「ノースウッズ –生命を与える大地–」



20年にわたり、アメリカとカナダの国境付近から北極圏にかけて広がる湖水地方ノースウッズの撮影取材を続ける大竹英洋氏。

ノースウッズとは北米の北方林、つまりアメリカとカナダの国境付近から北極圏にかけて広がる地域を指します。世界最大の原生林の一つでもあるこの土地には、カリブーやオオカミ、ホッキョクグマなど、さまざまな野生動物が生息しており、「生命を与える大地=ピマチオウィン・アキ」として2018年に世界複合遺産にも登録された地域も含まれます。本写真展は、自然、野生動物、旅、そして先住民の文化の4つの柱で構成され、自然と文化は切り離すことができない密接した関係を持っていることを表現しました。

森と湖、そして氷が織りなす世界で大竹英洋氏が見つめた詩情あふれる情景を、美しい作品群にてご覧いただきました。



展示作品点数

53点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
 後援：世田谷区教育委員会、港区教育委員会
 企画協力：株式会社クレヴィス
 プリント制作：プロラボ クリエイト

販売物

- ・『ノースウッズ –生命を与える大地–』(クレヴィス)
- ・オリジナルプリント(大全紙、半切、大四切、六切)

来館者数

合計13,516人(14日間)

大竹英洋氏は、本展を機に出版された写真集『ノースウッズ–生命を与える大地–』(クレヴィス)を対象に第40回土門拳賞(主催 毎日新聞社)を受賞されました。

Web公開動画

大竹氏によるギャラリートーク ムービー



来館者の声

大竹さんの写真の素晴らしさとプリントのキレイさに感動しました。

来たのは2回目です。また来たい!と思わせる展示で嬉しいです。

実際にノースウッズに行って写真を撮ってみたいです。

鵜川真由子写真展「LAUNDROMAT」

2021年1月29日(金)–2月11日(木・祝)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース2



ニューヨークでは、古い建物が多く水回りの設備が老朽化しているため住宅のほとんどに洗濯機がなく、高級なコンドミニアムや洗濯室があるビルなどを除けば、Laundromat(英語で「コインランドリー」を指す)に通うのが一般的といえます。

鵜川氏は、「大都会なのに実はとてもアナログな街というギャップがNYの好きなおとこですが、Laundromatもそんな要素の一つ。人種やジェンダー、貧富など関係なく『洗濯する』という同じ目的のために空間を共有し、洗濯物を通して他人のプライベートやアイデンティティを垣間見ることができる不思議な場所です。」と語りました。

本展は、鵜川氏が移民の多いクイーンズ地区から中心部のマンハッタンまで、NYでいくつものランドリーを巡り、ご自身も洗濯機を回しながらそこに集う人々を撮影した、NYの刺激的な姿とは異なるローカルな物語にスポットを当てた作品で構成しました。



展示作品点数

47点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
プリント制作：プロラボ クリエイト

販売物

『WONDER LAUND』(自費出版)

来館者数

合計8,231人(14日間)

Web公開動画

鵜川氏が語るインタビュー動画



来館者の声

外国に行って街を歩いているような気分になる写真展だった。

作品に味があって、ずっと見ていたいと思った。

写真の繊細さが素晴らしい。

萩原 れいこ写真展「Heart of Nature」

2021年2月26日(金)–3月11日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース2

隔月刊『風景写真』の若手育成企画の一環で、志賀高原にある「石の湯ロッジ」で働きながら、3年間の写真修行を積み、2020年から本格的に写真家として活動を始めた萩原れいこ氏。

氏が撮影活動を続けたことで得た“自然や命への気づき”。それは、私たちが日常生活を営むのと同様に、自然も日々の営みを続けていて、そこに楚々とした美しさがあることでした。例えば、新芽のみずみずしい美しさ、花の蕾の健気な可愛さ、命を謳歌する満開の花、しみじみと枯れゆく寂しい姿、倒木し新しい命を宿すたくましさで温かさ。

本展では、生まれ育った沖縄の暮らしの中で培われた自然へ畏敬の念や、20代での旅の経験から強くなった自然を愛しむ思い、そして“自然や命への気づき”が込められており、鑑賞することで自然を大切にしたい気持ちを育んでほしいという氏の気持ちが表れた写真展となりました。



展示作品点数

50点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
企画協力：風景写真出版
プリント制作：プロラボ クリエイト

販売物

- ・『Heart of Nature』(風景写真出版)
- ・『LOVE SCAPE』(LOVE SCAPE制作委員会)
- ・『現代風景写真表現』(玄光社MOOK)
- ・ポストカード
- ・展示作品

来館者数

合計8,723人(14日間)

Web公開動画

萩原氏が語るインタビュー動画



来館者の声

写真の奥深さを感じました。

写真が綺麗で繊細でした。

若手写真家支援は、素晴らしい取り組みです。

13 PREMIUM PRINTで飾る 「フォトアドバイス」Web写真教室作品展

2020年6月12日(金)～6月25日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3



フォトアドバイス株式会社が展開する「Web写真教室」による、富士フィルムのプリントサービス「PREMIUM PRINT」を活用した作品展を開催しました。写真を自由に・楽しく撮ることを学び、風景・人物・身近なもの等、オールジャンルで作品づくりをするWeb写真教室。その全国の受講生の力作1点1点を、「PREMIUM PRINT」で、富士フィルムのラボのプレミアムプリントマイスターがこだわりの色・作品を引き立たせる調子に調整のうえ高品質な銀写真プリントに仕上げ、ワンストップで展示加工まで施し展示しました。

展示作品点数

40点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
プリント制作：富士フィルムイメージングシステムズ株式会社

来館者数

合計9,883人(14日間)

14 FILM/DIGITAL それぞれのACROS

～14の車輪と7つの暗い部屋～

2020年9月25日(金)～10月8日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3



自転車と写真が好きという共通点だけで、俳優、プロ写真家、デジタルカメラの作り手、という異なるバックボーンを持つ7人が集まり、黑白フィルム ネオパン100ACROSIIと、デジタルカメラXシリーズに搭載された“フィルムシミュレーション ACROS”、それぞれの表現に自由にチャレンジしました。フィルムとデジタルの優劣ではなく、それぞれの表現手段の特長を活かしながら、本業を離れ、楽しみながら撮った写真を展示しました。

※ネオパン100 ACROSIIについては下記15「鮮やかなモノクローム」をご参照ください。

出展写真家

石井 正則、稲垣 徳文、上野 隆、内田 ユキオ、河田 一規、佐藤 純、宮坂 佳子

展示作品点数

55点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
プリント制作：写真弘社

来館者数

合計10,677人(14日間)

15 「鮮やかなモノクローム」

～プロフェッショナルが描く黑白の世界～

2020年10月2日(金)～10月22日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 ミニギャラリー



11名のプロが使いこなすネオパン 100ACROS II
鮮やかなモノクローム
～プロフェッショナルが描く黑白写真の世界～

◆出展写真家(五十音順)◆
gami コタニ シンスケ 小山 敦也 長嶋 正光
中村 成一 原 枝美 原 貴彦 平野 タカシ
MITCH IKEDA 善本 喜一郎 Ryushi

フジフィルム スクエア ミニギャラリー
2020年 10月2日(金)～22日(木) ※会期変更
午前10時～午後7時
(最終日 午後4時まで・入館終了10分前まで)

©小山 敦也

第一線の広告界で活躍するプロ写真家11名が、黑白フィルム ネオパン100ACROSIIを使って撮影した新作を集めた写真展。プロの手により「色」という情報をそぎ落として洗練された作品世界が、カラー写真を見慣れた私たちに新鮮な刺激を与えてくれました。

※ネオパン100 ACROSIIは、世界最高水準の粒状性と立体的な階調再現、優れたシャープネスを実現した、ISO感度100の黑白フィルム(2019年11月発売、35mmサイズ(36枚撮り)/ブローニーサイズ(12枚撮り))。

出展写真家

gami、コタニシンスケ、小山敦也、長嶋正光、中村成一、原枝美、原貴彦、平野タカシ、MITCH IKEDA、善本喜一郎、Ryushi

展示作品点数

22点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社、富士フィルムイメージングシステムズ株式会社
プリント制作：写真弘社

来館者数

合計16,698人(21日間)

16 美都写真展「SHONAN めもあやに」

～ brilliant colors 湘南 surf days ～

2020年10月9日(金)～10月15日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1



「めもあやに＝目も綾に」とは、目にも鮮やかな光や色に心を奪われることを指す和の言葉です。自身もサーフィンに興じるフォトグラファー美都氏が、美しい湘南の海の輝きとその波に乗り立つサーファーを撮り続け、湘南の海と空の階調豊かなトーンを「めもあやに」表現した初の個展を開催しました。

富士フィルムのXシリーズカメラで撮影した作品を、当社の最新のネットプリントサービス、PREMIUM PRINT・WALL DECORなどで仕上げました。

展示作品点数

70点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
プリント制作：富士フィルムイメージングシステムズ株式会社

販売物

展示作品販売

来館者数

合計5,564人(7日間)

17 PHOTO with SMILE

2020年10月9日(金)～10月22日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3



写真には、喜びや感動の大切な瞬間を思い出としてカタチに残し、その想いを共有することでたくさんの人を笑顔や元気にするチカラがあると考えています。この写真のチカラを多くの人に伝えるため、富士フィルムは“笑顔=SMILE”をテーマとして500点の作品を募集し、参加型写真展「PHOTO with SMILE」を開催いたしました。本写真展では、遠方からでも気軽に作品を観覧できるよう、会場の様子を360°カメラで撮影しオンラインで公開するという試みも行いました。

展示作品点数

505点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社、富士フィルムイメージングシステムズ株式会社
協力：公益社団法人日本写真家協会、公益社団法人日本広告写真家協会、公益社団法人日本写真協会、全日本写真材料商組合連合会、フジカラー総合ラボグループ、日本鉄道写真作家協会
プリント制作：富士フィルムイメージングシステムズ株式会社

来館者数

合計11,195人(14日間)

18 「また行きたい」ニッポン旅

2020年10月23日(金)～10月29日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3



富士フィルム主催「PHOTO IS 写真展」と日本航空株式会社の共同で、参加型写真展を開催しました。Twitter・Instagram上で広く一般の皆様から「また行きたい思い出の旅行への気持ちを込めた写真」を募集し、選ばれた200点を、当社の写真をパネルに加工するサービス「WALL DECOR」を使って作品に仕上げ展示しました。

展示作品点数

200点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社、日本航空株式会社
プリント制作：富士フィルムイメージングシステムズ株式会社

来館者数

合計5,907人(7日間)

19 富士フィルム PREMIUM PRINT による 「こだわり花クラブ」写真展

2020年10月23日(金)～11月12日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 ミニギャラリー



花好きが集まり、写真家 岡本洋子氏の指導のもと、撮影会や作品講評会、写真展を行いながら、四季の花の撮影を楽しむ「こだわり花クラブ」の作品展を開催しました。展示に使用した「PREMIUM PRINT」は、誰もが「最高の銀塩技術で最高の写真プリント」を仕上げられる、富士フィルムの新サービスです。表面の光沢が強いクリスタルや光沢のないディープマットなど面種が選べるので、メンバーがそれぞれの作品にあった面種を選び、自分でネットで注文して作品に仕上げました。

展示作品点数

35点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社、富士フィルムイメージングシステムズ株式会社
プリント制作：富士フィルムイメージングシステムズ株式会社

来館者数

合計18,697人(21日間)

20 井津建郎写真展 「ポンペイ 鎮魂歌 -POMPEII/REQUIEM-」

2020年11月13日(金)～11月26日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3



ポンペイ遺跡局のオリジナルの石膏人型を、古代ポンペイの人々の「肖像」として撮影することを井津建郎氏が例外的に許可され制作した貴重な作品を展示しました。「1900年前の火山の噴火は、現代の核爆発に相当するような破壊力であったことが想像でき、日本人の私には広島への原爆投下後の記録写真と現在の広島の情景がポンペイと重なって見えた。」と語る同氏。本作は、同氏が初めてポンペイ遺跡で人型を見た時に感じた“現在何時、何処でも起こり得る脅威”を現代の人々に提示する機会となりました。

展示作品点数

15点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
プリント制作：写真弘社

販売物

プリント販売

来館者数

合計13,516人(14日間)

21 instax “チェキ” 写真展「instax SQUARE SQ1」GALLERY ～スクエアなら私の世界はこんなにも広い。～

2020年11月27日(金)～12月28日(月)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3



モデル・女優のモトロー世理奈さん、モデル・俳優の鈴木仁さんをはじめ、アーティストや写真家など総勢14名の方が、インスタントカメラinstax“チェキ”の新製品「instax SQUARE SQ1」(以下「SQ1」)で撮影した貴重なチェキプリントを展示しました。「SQ1」を通してそれぞれの視点で切り取られた世界と、スクエアフォーマットのチェキプリントならではの魅力をお楽しみいただく写真展となりました。

出展写真家

モトロー世理奈、鈴木仁、阿久津ゆりえ、植田真梨恵、かくたみほ、加藤順子、kisimari、熊谷直子、古性のち、野本敬大、フクモトヒロスケ、MARCO、宮川大聖、山口大貴

展示作品点数

チェキ126点、大伸ばし14点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
プリント制作：富士フィルムイメージングシステムズ株式会社

来館者数

合計30,811人(32日間)

22 FUJIFILM GFX/Xシリーズ 新製品「GFX100S」「X-E4」「XF70-300mmF4-5.6 R LM OIS WR」発表記念作品展

2021年1月29日(金)–
2月18日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京
スペース3



2021年1月27日に発表したFUJIFILM「GFXシリーズ」「Xシリーズ」の新製品を使用して撮影した作品を展示。写真家 喜多規子氏が1億画素の高画質で階調豊かな「GFX100S」で撮影した風景写真、河田一規氏が高性能で機動力の高い「X-E4」で撮影したスナップ写真、米屋こうじ氏が小型軽量でズーム領域の長い「XF70-300mmF4-5.6 R LM OIS WR」で撮影した鉄道写真をご覧いただきました。

展示作品点数

18点

クレジット

主催:富士フィルム株式会社
プリント制作:プロラボ クリエイト

来館者数

合計12,594人(21日間)

23 WALL DECOR BY CREATORS (ウォールデコ バイ クリエイターズ)

2021年2月19日(金)–3月11日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3

～写真家・クリエイター7人がおすすめする、お部屋を飾るウォールデコ～



7人の写真家・クリエイターが、それぞれの被写体を思い通りの感性で「WALL DECOR」として作成した作品を展示しました。「WALL DECOR」とは、写真をパネルに加工して提供する当社のサービスです。本展は、展示作品の中から気に入りの作品をみつけたらご購入いただくことも可能な展示とし、写真をお部屋に飾って、「写真と、ちょっといい暮らし」を体験していただく試みとなりました。

出展写真家

今浦友喜、大島央照、CALME、萩原れいこ、美都、やまぐち千子、渡邊真弓

展示作品点数

38点

クレジット

主催:富士フィルム株式会社
プリント制作:富士フィルムイメージングシステムズ株式会社

来館者数

合計13,013人(21日間)

24 富士フィルム写真救済プロジェクト

「私たちがやってきたこと。そして、わかったこと。」

2021年2月19日(金)–3月11日(木)
富士フィルムフォトサロン 東京 ミニギャラリー



2011年3月、東日本大震災。必死に救助活動や復旧作業が進められる中、見渡す限りの「瓦礫」の山の中から拾い集められ始めたのが、「ご位牌」と泥まみれの「写真アルバム」でした。翌4月、富士フィルムは「写真救済プロジェクト」を立ち上げ、持ち主のわからない写真をきれいに洗浄して返却するボランティアの方たちを技術面・物資面で支援してきました。写真の大切さを改めて感じていただけたらという思いで、当時の活動を写真で振り返る写真展を開催しました。

展示作品点数

30点

クレジット


主催:富士フィルム株式会社、富士フィルムイメージングシステムズ株式会社
プリント制作:富士フィルムイメージングシステムズ株式会社

来館者数

合計13,013人(21日間)

「100年前にカワセミを撮った男・下村兼史 —日本最初の野鳥生態写真家—

2020年7月1日(水)～9月30日(水)
写真歴史博物館



FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展

100年前にカワセミ を撮った男・下村兼史 —日本最初の野鳥生態写真家—

2020年7月1日(水)～9月30日(水) 10:00-19:00 会期中無休・入場無料
最終日は16:00まで、入場は閉館15分前まで

主催：富士フイルム株式会社 協賛：公益財団法人 山階鳥類研究所
特別協力：公益財団法人 山階鳥類研究所 協力：公益財団法人 日本野鳥の会、有限会社バード・フォト・アーカイブス / 監修：公益財団法人 山階鳥類研究所 / 後援：港区教育委員会 / 企画：株式会社フォトクラシック / 複製プリント制作：写真弘社

後援：港区教育委員会 企画：フォトクラシック

FUJIFILM SQUARE

日本最初の野鳥生態写真家・下村兼史を取り上げました。下村はおよそ100年前、日本で初めて野鳥の撮影に成功し、日本における野鳥を主とした生物写真の先駆者です。

野生生物を写真で記録する者の少なかった1920年代から30年代、下村は、北は北千島から南は奄美大島、小笠原諸島を歴訪し、里山、離島、原野など、今日では変貌がいちじるしい自然環境と、自然にあるがままの野生生物の姿を写真で記録しました。過酷な撮影条件のもと、現代から見れば性能の劣る撮影機材や感光材料を用いて生み出された下村の写真は、時に詩情にあふれ、時に科学者の眼を感じさせます。研ぎ澄まされた美意識と感性でとらえられた野鳥の写真は、野鳥の生態を知り尽くした下村の卓越した撮影技術と芸術的センスの賜物でした。

本展は、公益財団法人 山階鳥類研究所の協力を得て、同研究所が所蔵する下村兼史のオリジナル・プリントを中心に、歴史的、作品的価値という視点から下村の作品群を構成してご紹介しました。

来館者からは「どうやって撮ったのだろう?と思った」など、写真を通じて好奇心が刺激されたという声や、「貴重な写真がたくさんあり、見応えがある」など、作品の魅力を堪能したという感想が寄せられました。

下村の自然を愛する心、野鳥の一瞬をとらえようとする飽くなき情熱から生まれた傑作の数々が、便利さや手軽さと引き換えに失われてしまった写真表現の美しさをたたえ、現代に生きる私たちにその魅力を改めて気づかせてくれる機会となりました。



展示作品点数

65点

クレジット

主催：富士フイルム株式会社 / 特別協力：公益財団法人 山階鳥類研究所 / 協力：公益財団法人 日本野鳥の会、有限会社バード・フォト・アーカイブス / 監修：公益財団法人 山階鳥類研究所 / 後援：港区教育委員会 / 企画：株式会社フォトクラシック / 複製プリント制作：写真弘社

販売物

- ・「100年前にカワセミを撮った男・下村兼史の本」(フォトクラシック)
- ・「100年前にカワセミを撮った男」(山階鳥類研究所)
- ・ポストカードセット(各6枚入)

主要メディア掲載

東京新聞(7月9日)、毎日新聞(東京、7月17日)、読売新聞(東京、8月28日)、ギャラリー(4月号)、定年時代 東京版(8月18日)、infoseekニュース、ORICON NEWS、livedoor ニュース ほかに雑誌、ウェブサイトなど多数

来館者数

合計64,780人(92日間)

Web公開記事

- ①公益財団法人 山階鳥類研究所・広報コミュニケーションディレクター 平岡 考氏へのインタビュー記事「下村兼史の人と作品を語る」(前編、後編、特別編 全3本)
- ②公益財団法人 日本野鳥の会・主席研究員 安西英明氏へのインタビュー記事「野鳥に気づいて、命のドラマを知ろう」(前編、後編、特別編 全3本)



来館者の声

見応えのある写真が多く、是非過去の展示も遡って見てみたいです。

カワセミの写真など、貴重なものを見て良かった。

鳥たちが皆どれも生き生きしていて素敵な写真でした。

音楽を奏でる写真たち

木之下 晃「世界の音楽家」

2020年10月1日(木)～12月28日(月)
写真歴史博物館


Alfred Brendel アルフレッド・ブレンデル
1914年7月2日 奥州文化会館

音楽を奏でる写真たち

「世界の音楽家」

写真歴史博物館 企画写真展

フジフィルム スクエア

2020年
10/1[木]～12/28[月]
会期中無休・入館無料
10時～19時(最終日は16時まで 入館は終了10分前まで)
※写真展・イベントは中止をせず中止・変更させていただきます。予めご了承ください。
主催：富士フィルム株式会社 特別協力・監修：株式会社木之下晃アーカイヴズ
後援：港区教育委員会 企画：フォトクラシック

FUJIFILM SQUARE

木之下 晃(1936～2015)は1960年代からおよそ半世紀にわたり、音楽の世界を写真で表現しつづけてきた写真家です。「音楽写真」という未開拓のジャンルを切り拓き、第一人者として国内外で活躍した木之下は、ヘルベルト・フォン・カラヤン、マリア・カラス、小澤征爾ら、世界の名だたる巨匠たちを撮影。その作品は「音楽が聴こえる」と絶賛され、写真界と音楽界の両面から、国際的にも高い評価を得てきました。音楽を主題とした木之下の撮影テーマは多岐にわたりますが、その真骨頂ともいえるのが、音楽家たちの演奏シーンをとらえた写真です。雄大な指揮者のダイナミックな動き、情感に満ちた演奏家たちの繊細な一瞬をとらえた写真は、彼らの精神や哲学、音楽の本質までも表現する稀有なものとして多くの音楽家たちから愛され、木之下のもとにはいくつもの撮影依頼が舞い込んできたといえます。

本展では、音楽写真家・木之下 晃の数ある傑作の中から、作家本人の手によるオリジナル・プリントを中心に、ゼラチン・シルバー・プリント52点を厳選して展示しました。木之下は生前、一貫してアナログの表現にこだわり続け、フィルムカメラで撮影する理由を「シャッターチャンスの緊張感をもつ精神性にある」と説いていました。また、暗室作業から生まれるゼラチン・シルバー・プリントは「永続性」に価値があるとして、印画紙でのプリント制作に徹しました。写真がデジタル全盛の時代にある現在、木之下のアナログにこだわった写真表現が、私たちに写真の本質と魅力をあらためて伝える写真展となりました。



展示作品点数

52点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
特別協力：株式会社木之下晃アーカイヴズ
監修：株式会社木之下晃アーカイヴズ
後援：港区教育委員会
企画：株式会社フォトクラシック
プリント制作：写真弘社

販売物

- ・音楽写真集叢書「最後のマリア・カラス」(響文社)
- ・音楽写真集叢書「栄光のバーンスタイン」(響文社)

主要メディア掲載

毎日新聞夕刊(東京、10月26日)、長野日報(11月14日)、東京新聞夕刊(12月3日)、中日新聞、日刊県民福井(12月4日)、Weeklyプレイボーイ(8月31日)、音楽現代(9月15日)、音楽の友(9月18日)、レコード芸術(9月20日)、pen(11月15日)、デジカメ Watch 中日新聞夕刊(12月3日)ほか雑誌、ウェブサイトなど多数

来館者数

合計79,360人(89日間)

Web公開記事

木之下晃アーカイヴズ 取締役
木之下 貴子氏へのインタビュー記事
「写真家・木之下晃の人と作品を語る」



来館者の声

木之下先生の作品が、今日もなお、多くの人々に感動を与えてくださることに、感謝の気持ちで一杯です。

本展覧会が開催されたことを嬉しく思い、上京しました。
ありがとうございました。

音楽への情熱が可視化されました。

ここに人間味あふれる写真家があります。

秋山亮二「津軽・聊爾(りょうじ)先生行状記」

2021年1月4日(月)～3月31日(水)
写真歴史博物館



日本国政府より勲五等双光旭日章を叙勲されしM先生、また黄綬褒章を受章されしT女史の合同記念祝賀会は、G市の市民文化会館にて盛大に催された。M先生は長年にわたり郵便業務に、T女史は長年にわたり助産婦としての活動に、それぞれ精勤されしことの叙勲、授章なり。

二〇二二年
一月四日(月)～三月三十一日(水)
十時～十九時(最終日は十六時まで、入館は終日十分前まで)
会期中無休・入館無料
主催：富士フィルム株式会社 後援：港区教育委員会 企画：フォトクラシック

ここに
人間味あふれる
写真家があります。

FUJIFILM SQUARE

フジフィルムスクエア 写真歴史博物館 企画写真展

秋山亮二
津軽・聊爾先生行状記

秋山亮二は戦後日本を代表する写真家の一人です。国内外での旅や滞在を通じ、各地で出会った人々や風景を独特の距離感と間合いでとらえた写真は、国際的にも高く評価されています。

秋山はAP通信社東京支局、朝日新聞社写真部に勤めたのち、1967年にフリーランスの写真家となりました。当初はフォトジャーナリストの視点で社会問題を積極的に取材していましたが、ジャーナリストという職業が自分に不向きであることを徐々に自覚したことで、もっと自分の周りをよく見ることの大切さに気づき、旅先や滞在先で会う人々に心を寄せ、その光景を温かな眼差しでとらえる写真へと作風を変化させていきました。

〈津軽・聊爾先生行状記〉は1978年に自身初の写真集として発表された作品です。「仮想の支局長として自らを地方都市に派遣し、その暮らしを仮想の本社へ写真でレポートすることで、何か見えてくるのではないか」というユニークな発想のもと、新たな作品づくりに取り組み始めます。家族とともに1975年夏から1977年春にかけて青森県弘前市に移り住んだ秋山は、仮想の役割を担い、津軽の地で過ごした月日と、出会った人々を愛情ゆたかに、軽やかに写真で記録していきました。

本展は、この〈津軽・聊爾先生行状記〉より、精選した30点を新たに制作したオリジナルプリントで展示しました。

秋山がとらえた日本の古き良き時代の空気、人間同士の心が通い合う温かさが、ある世代には懐かしく、ある世代には新鮮に映り、現代を生きる私たちに新たな眼と、安らぎの時を与える写真展となりました。



展示作品点数

30点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
後援：港区教育委員会
企画：株式会社フォトクラシック
プリント制作：写真弘社

販売物

- 『你好小朋友-中国の子供達-』(青艸堂)
- 『新編 津軽 聊爾先生行状記』(rojirojibooks)
- 『新編 津軽 聊爾先生行状記』(スペシャルエディション) (rojirojibooks)

主要メディア掲載

毎日新聞夕刊(東京、1月18日)、東京新聞(1月21日)、フォトコン(2月号)、CAPA(2月号)、旅の手帖(1月10日)、LEON.jp、antenna、毎日新聞WEB、Yahoo!ニュースほかウェブサイトなど多数

来館者数

合計55,399人(87日間)

Web公開記事

秋山亮二氏へのインタビュー記事
「写真は『自分探し』-
〈津軽・聊爾先生行状記〉を語る」



来館者の声

聊爾先生の写真が人間味溢れていて良かった。

人となりが出て、写真って面白いですね。

写真を見て、旅行に行きたくなった。

新型コロナウイルス感染症に対する取り組み

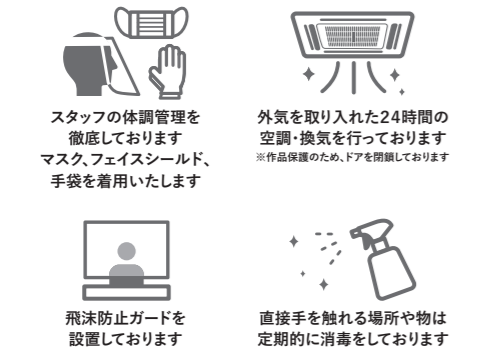
■新型コロナウイルス感染症対策

開館にあたっては、来館者、出展者とスタッフの安全を確保することを最優先とし、安心安全な環境を整備するとともに、イベント等を中止しました。

ご来館の皆様へのお願い



フジフィルム スクエアの取り組み



■延期・中止となった写真展

写真展名	開催予定期間	対応
第71回 中日写真展・東京展	2020年4月3日(金)～4月9日(木)	中止
江口横一写真家園 第5回作品展「光の森」	2020年4月3日(金)～4月9日(木)	2020年10月9日(金)～10月15日(木)開催
第59回 富士フィルムフォトコンテスト入賞作品発表展	2020年4月10日(金)～4月16日(木)	2020年7月31日(金)～2020年8月6日(木)開催
第29回 林忠彦賞受賞記念写真展 笠木絵津子「私の知らない母」	2020年4月17日(金)～4月23日(木)	2021年4月16日(金)～2021年4月22日(木)開催
【写真家たちの新しい物語】花井 達 写真展「祝!結婚」	2020年4月17日(金)～4月30日(木)	2020年8月7日(金)～2020年8月20日(木)開催
「鮮やかなモノクローム」-プロフェッショナルが描く黒白の世界-	2020年4月17日(金)～4月30日(木)	2020年10月2日(金)～2020年10月22日(木)開催
フォート・樹 30周年記念写真展「風貌」	2020年4月24日(金)～4月30日(木)	中止(2021年4月23日(金)～2021年4月29日(木・祝)に開催予定だったが、臨時休館となったため中止)
フォトグループいぶき写真展【2020四季のいぶき】	2020年5月1日(金)～5月7日(木)	2020年8月14日(金)～8月20日(木)開催
板尾 浩 写真展「月景色」	2020年5月1日(金)～5月7日(木)	2020年9月4日(金)～9月10日(木)開催
尾仲浩二写真展「ネコとコージくん」	2020年5月1日(金)～5月14日(木)	2020年7月24日(金・祝)～8月6日(木)開催
山本 一 写真展「いろこよみ」二十四節気七十二候	2020年5月8日(金)～5月14日(木)	2020年11月13日(金)～2020年11月19日(木)開催
宮沢あきら ナチュラルフォト写真教室写真展「旬彩模葉」	2020年5月8日(金)～5月14日(木)	2020年8月28日(金)～2020年9月3日(木)開催
丸山純一写真展「母なる浅間 恵みの大地」	2020年5月15日(金)～5月21日(木)	2020年10月2日(金)～2020年10月8日(木)開催
【写真家たちの新しい物語】熊木 理 写真展「砂の形 -Lost on a sand planet-」	2020年5月15日(金)～5月28日(木)	2020年9月11日(金)～2020年9月24日(木)開催
MARCO写真展「あつあつ!おでんカルテット」	2020年5月15日(金)～5月28日(木)	2020年7月10日(金)～2020年7月23日(木・祝)開催
渡邊武夫写真展「季樹彩彩」	2020年5月22日(金)～5月28日(木)	2020年11月20日(金)～2020年11月26日(木)開催
東京写真月間2020 日本写真協会賞受賞作品展	2020年5月29日(金)～6月4日(木)	2021年6月1日(火)～2021年6月3日(木)開催 (2021年5月28日(金)～6月3日(木)開催予定だったが、臨時休館となったため会期を短縮して開催)
高橋 勇 写真展「然 Zen ～閑寂枯淡の美」	2020年5月29日(金)～6月4日(木)	2020年10月2日(金)～2020年10月8日(木)開催
第12回 六本木フォトコンテスト写真展	2020年5月29日(金)～6月11日(木)	2020年7月31日(金)～2020年8月20日(木)開催

※2020年2月28日(金)～6月8日(月)および2021年4月25日(日)～5月31日(月)まで新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から臨時休館



《来館者の声》

このような中でも、無料で誰でも見ることができるところで写真展を開催していただけたことに感謝いたします。スタッフの方々の対応や会場内の感染対策も徹底されており良かったと思います。

コロナの影響の中、ご準備、運営と細心の予防に感謝しております。

まず、開催していただいたことに非常に感謝しております。感染対策をしっかり行っていたため、安心して観覧することができました。また、4ヶ月も外出をしない生活を続けていたため、精神的にかなり参っていましたが、今回の企画展のおかげで心が満たされました。

久しぶりの外出で美しいものを感じられ、とても嬉しいです

■Webを活用した取り組み

イベントに代わり、フジフィルム スクエア ウェブサイトで「動画」「インタビュー記事」を公開しました。

《動画リスト》

カテゴリ	写真展名	写真展期間	出演(敬称略)	タイトル
【写真家たちの新しい物語】	花井 達 写真展「祝!結婚」	2020年8月7日～8月20日	花井 達	花井氏出演のほっこり&じんわり感動「ギャラリートーク ムービー」
【写真家たちの新しい物語】	写真展「東京の野鳥たち」	2020年8月7日～8月27日	藍沙	中学生動物写真家 藍沙氏出演の「ギャラリートーク ムービー」
【写真家たちの新しい物語】	熊木 理 写真展「砂の形 -Lost on a sand planet-」	2020年9月11日～9月24日	熊木 理	熊木氏出演の「ギャラリートーク ムービー」
【写真家たちの新しい物語】	藤村 里木写真展「鉄塔風景」	2020年10月30日～11月12日	藤村 里木	鉄塔風景写真家 藤村氏出演の「ギャラリートーク ムービー」
【写真家たちの新しい物語】	大竹英洋写真展「ノースウッズ-生命を与える大地-」	2020年11月13日～11月26日	大竹 英洋	20年間のノースウッズ取材の集大成を個展で表現する大竹氏の「ギャラリートーク ムービー」
FUJIFILM SQUARE 企画写真展	「ハッブル宇宙望遠鏡 宇宙の神秘を紐解く30年」	2020年11月27日～12月17日	渡部 潤一	写真展監修:国立天文台副台長 渡部潤一氏「ハッブル宇宙望遠鏡を語る」
【写真家たちの新しい物語】	鶴川 真由子写真展「LAUNDROMAT」	2021年1月29日～2月11日	鶴川 真由子	鶴川氏が、自身の撮影の視点について語る「ギャラリートーク ムービー」
【写真家たちの新しい物語】	萩原 れいこ写真展「Heart of Nature」	2021年2月26日～3月11日	萩原 れいこ	萩原氏が撮影に臨む思いについて語る「インタビュー動画」
FUJIFILM SQUARE 企画写真展	「海流が育むいのち」～黒潮の力、親潮の恵み～	2021年3月12日～4月1日	工藤 孝浩 高久 至 阿部 秀樹 佐藤 輝 関 勝則 鍵井 靖章	「海流が育むいのち」～黒潮の力、親潮の恵み～写真展開催記念Web動画(6本) 海の研究者が語る、豊かなニッポンの海のお話 海流 黒潮と親潮 × 監修者 工藤孝浩(日本魚類学会) 屋久島に移住した写真家が語る、海の生きもののお話 屋久島周辺の海 × 高久 至 日本各地を巡る写真家が語る、日本最大の半島の海のお話 紀伊半島沖 × 阿部 秀樹 人気ダイビングガイドが語る、都心に近い海のお話 相模湾 × 佐藤 輝 世界自然遺産 知床を捉える写真家が語る、流水の海のお話 知床沖 × 関 勝則 国内外を撮影する写真家が10年通い続けた、震災に遭った海のお話 三陸沖 × 鍵井 靖章



《寄せられた声》

写真家の命や自然に対する考え方に共感しました。会場でお話をお聞きしたいです。

作家の思いが伝わってきて、今日すぐにでも行って早く実際に見てみたいと思いました。作品を拝見することが楽しみです。

写真家の人となりが感じられるのが素晴らしい。自分の言葉と声で展覧会や作品への想いを伝えており、嘘や誇張がなく感じられて好感が持てる。

写真展に行きたかったのですが、コロナで断念しました。しかし、展示されている写真の大きさなどがこの動画でわかり、雰囲気味わうことができました。

《インタビュー記事リスト》

写真展名	写真展期間	タイトル	ゲスト(敬称略)
100年前にカワセミを撮った男・下村兼史 -日本最初の野鳥生態写真家-	2020年7月1日～9月30日	インタビューシリーズ・第1弾「下村兼史の人と作品を語る」(前編、後編、特別編 全3本)	平岡 考 (公益財団法人山階鳥類研究所・広報コミュニケーションディレクター)
		インタビューシリーズ・第2弾「野鳥に気づいて、命のドラマを知ろう」(前編、後編、特別編 全3本)	安西 英明 (公益財団法人 日本野鳥の会・主席研究員)
音楽を奏でる写真たち 木之下 晃「世界の音楽家」	2020年10月1日～12月28日	インタビューシリーズ・第3弾「写真家・木之下晃の人と作品を語る」	木之下 貴子 (株式会社 木之下晃 アーカイヴス)
ここに人間味あふれる写真家があります。秋山亮二「津軽・聊爾(りょうじ)先生行状記」	2021年1月4日～3月31日	インタビューシリーズ・第4弾「写真は『自分探し』 - 津軽・聊爾先生行状記を語る」	秋山 亮二 (写真家)



写真展開催リスト

■富士フィルムフォトサロン 東京・ミニギャラリー／開催写真展 計72本(当社が主催する企画展35*本、公募展37本 ※うち共催3本含む)

	開催期間	会場			
		スペース1	スペース2	スペース3	ミニギャラリー
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 田沼武能写真展「わが心の東京」	2020年6月9日(火)～2020年7月9日(木)	●	●		●
PREMIUM PRINTで飾る「フォトアドバイス」Web写真教室作品展	2020年6月12日(金)～2020年6月25日(木)			●	
「第8回 クラカメ雑談会 写真展」ネオバン100 ACROSII作品展	2020年6月26日(金)～2020年7月9日(木)			●	
FUJIFILM SQUARE 企画写真展「M」～ステージ・オブ・マイケル・ジャクソン～	2020年7月10日(金)～2020年7月30日(木)	●	●		●
MARCO写真展「あつあつ!おでんカルテット」	2020年7月10日(金)～2020年7月23日(木・祝)			●	
尾仲浩二写真展「ネコとコージくん」	2020年7月24日(金・祝)～2020年8月6日(木)			●	
第59回 富士フィルムフォトコンテスト入賞作品発表展	2020年7月31日(金)～2020年8月6日(木)	●	●		
第12回 六本木フォトコンテスト写真展	2020年7月31日(金)～2020年8月20日(木)				●
第41回 よみうり写真大賞入賞作品発表展	2020年8月7日(金)～2020年8月13日(木)	●			
富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト 【写真家たちの新しい物語】花井 達 写真展「祝!結婚」	2020年8月7日(金)～2020年8月20日(木)		●		
富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト 【写真家たちの新しい物語】藍沙 写真展「東京の野鳥たち」	2020年8月7日(金)～2020年8月27日(木)			●	
フォトグループいぶき写真展【2020四季のいぶき】	2020年8月14日(金)～2020年8月20日(木)	●			
JAPAN PHOTO 2019「日本の祭りフォトコンテスト」入賞作品展	2020年8月21日(金)～2020年8月27日(木)	●			
四季会写真展「四季彩美50周年」	2020年8月21日(金)～2020年8月27日(木)		●		
第13回 山中湖フォトグランプリ写真展	2020年8月21日(金)～2020年9月10日(木)				●
第15回 写団・渡良瀬写真展「渡良瀬四季彩」	2020年8月28日(金)～2020年9月3日(木)	●			
宮沢あきら ナチュラルフォト写真教室写真展「旬彩模葉(しゅんさいもよう)」	2020年8月28日(金)～2020年9月3日(木)		●		
FUJIFILM SQUARE 企画写真展「平成・東京・スナップLOVE」ポートフォリオレビュー/ファイナル・セレクション展 Vol.1 山端拓哉「ロシア語日記」	2020年8月28日(金)～2020年9月10日(木)			●	
米谷昌浩写真展「奈良 遥かなる山稜」	2020年9月4日(金)～2020年9月10日(木)	●			
板尾 浩 写真展「月景色」	2020年9月4日(金)～2020年9月10日(木)		●		
第10回 エボニークラブ展「旬美」	2020年9月11日(金)～2020年9月17日(木)	●			
富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト 【写真家たちの新しい物語】熊木 理 写真展「砂の形 -Lost on a sand planet -」	2020年9月11日(金)～2020年9月24日(木)		●		
FUJIFILM SQUARE 企画写真展「平成・東京・スナップLOVE」ポートフォリオレビュー/ファイナル・セレクション展 Vol.2 小西拓良「笹舟」	2020年9月11日(金)～2020年9月24日(木)			●	
X-T4 葉っぱのある風景 ～ 宮沢あきら ～	2020年9月11日(金)～2020年10月1日(木)				●
落井俊一写真展「山海里・響(さんかいり・ひびき)」	2020年9月18日(金)～2020年9月24日(木)	●			
2020全日本読売写真クラブ展	2020年9月25日(金)～2020年10月1日(木)	●	●		
FILM/DIGITAL それぞれのACROS ～14の車輪と7つの暗い部屋～	2020年9月25日(金)～2020年10月8日(木)			●	
FUJIFILM SQUARE 企画写真展「平成・東京・スナップLOVE」ポートフォリオレビュー/ファイナル・セレクション展 Vol.3 阪東美音「メロウ」	2020年10月2日(金)～2020年10月15日(木)				富士フィルムフォトサロン 大阪
FUJIFILM SQUARE 企画写真展「平成・東京・スナップLOVE」ポートフォリオレビュー/ファイナル・セレクション展 Vol.4 前川朋子「漣での灯火(ともしび)」	2020年10月2日(金)～2020年10月15日(木)				富士フィルムフォトサロン 大阪
丸山純一写真展「母なる浅間 恵みの大地」	2020年10月2日(金)～2020年10月8日(木)	●			
高橋 勇 写真展「然 Zen ～閑寂枯淡(かんじゃくたんの)の美」	2020年10月2日(金)～2020年10月8日(木)		●		
富士フィルム 企画写真展「鮮やかなモノクローム」-プロフェッショナルが描く黒白の世界-	2020年10月2日(金)～2020年10月22日(木)				●
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 美都写真展「SHONAN めもあやに」～ brilliant colors 湘南 surf days ～	2020年10月9日(金)～2020年10月15日(木)	●			
江口横一写真楽園 第5回作品展「光の森」	2020年10月9日(金)～2020年10月15日(木)		●		
PHOTO with SMILE	2020年10月9日(金)～2020年10月22日(木)			●	
中條均紀写真展「古志の里 -新潟県中越地震から15年-	2020年10月16日(金)～2020年10月22日(木)	●			
高城芳治写真展「Birdscape ～野鳥 瞬・彩・美～」	2020年10月16日(金)～2020年10月22日(木)		●		
一般社団法人 日本自然科学写真協会 第41回 SSP展「自然を楽しむ科学の眼 2020-2021」	2020年10月23日(金)～2020年10月29日(木)	●	●		
「また行きたい」ニッポン旅	2020年10月23日(金)～2020年10月29日(木)			●	
富士フィルム PREMIUM PRINT による「こだわり花クラブ」写真展	2020年10月23日(金)～2020年11月12日(木)				●
全日写真フェスティバル2020	2020年10月30日(金)～2020年11月5日(木)	●	●		
富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト 【写真家たちの新しい物語】藤村 里木写真展「鉄塔風景」	2020年10月30日(金)～2020年11月12日(木)			●	

*緑字は当社主催企画展およびその他当社共催写真展



田沼武能氏(左)(田沼武能写真展「わが心の東京」会場内撮影コーナーにて)



美都(みと)氏(美都写真展「SHONAN めもあやに」)



中藤毅彦氏(左)、小西拓良氏(右)(ポートフォリオレビュー/ファイナル・セレクション展Vol.2 小西拓良「笹舟」)



左より花井 達氏、前川朋子氏、阪東美音氏(富士フィルムフォトサロン 大阪にて)【写真家たちの新しい物語】花井 達 写真展「祝!結婚」(大阪巡回展)ポートフォリオレビュー/ファイナル・セレクション展 Vol.3 阪東美音「メロウ」、Vol.4 前川朋子「漣での灯火(ともしび)」搬入時の一コマ



取材を受ける山端拓哉氏(左)(ポートフォリオレビュー/ファイナル・セレクション展Vol.1 山端拓哉「ロシア語日記」)



富士フィルム PREMIUM PRINT による「こだわり花クラブ」写真展会場での岡本洋子氏(同クラブ指導者)

写真展開催リスト

	開催期間	会場			
		スペース1	スペース2	スペース3	ミニギャラリー
古賀絵里子・鈴木策写真展「高野山・熊野」	2020年11月6日(金)～2020年11月12日(木)	●	●		
山本 一 写真展「いろこよみ」二十四節気七十二候(にじゅうしせつきしちじゅうこう)	2020年11月13日(金)～2020年11月19日(木)	●			
富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト 【写真家たちの新しい物語】 大竹英洋写真展「ノースウッズー生命を与える大地ー」	2020年11月13日(金)～2020年11月26日(木)		●		
【富士フィルムグループ企業広告】グローバルブランディングキャンペーン 「NEVER STOP」新聞広告展	2020年11月13日(金)～2020年11月26日(木)				●
井津建郎写真展「ポンペイ 鎮魂歌 -POMPEII/REQUIEM-」	2020年11月13日(金)～2020年11月26日(木)			●	
渡邊武夫写真展「季樹彩彩(ききさいさい)」	2020年11月20日(金)～2020年11月26日(木)	●			
FUJIFILM SQUARE 企画写真展「ハッブル宇宙望遠鏡 宇宙の神秘を紐解く30年」	2020年11月27日(金)～2020年12月17日(木)	●	●		●
instax「チェキ」写真展「instax SQUARE SQ1」GALLERY ～スクエアなら私の世界はこんなにも広い。～	2020年11月27日(金)～2020年12月28日(月)			●	
第39回 ハッセルブラッド フォト クラブ写真展	2020年12月18日(金)～2020年12月28日(月)	●			
「2020年 日本雑誌写真記者会写真展」	2020年12月18日(金)～2020年12月28日(月)		●		
WALL DECORで飾る「丸の内写真教室作品展」	2020年12月18日(金)～2020年12月28日(月)				●
【風景写真祭2021】第16回 美しい風景写真100人展	2021年1月4日(月)～2021年1月14日(木)	●	●		●
【風景写真祭2021】風景写真 X tension展	2021年1月4日(月)～2021年1月14日(木)			●	
山岳写真展「悠久の峰」	2021年1月15日(金)～2021年1月21日(木)	●			
【富士フィルムグループ企業広告】グローバルブランディングキャンペーン「NEVER STOP」新聞広告展	2021年1月15日(金)～2021年1月28日(木)				●
FUJIFILM Xシリーズ&GFX作品展 ～川隅 功・宮沢あきら・岡本洋子～	2021年1月15日(金)～2021年1月28日(木)		●	●	
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 幕末明治を写した記録写真 Photographs of the Late Edo / Early Meiji Period ～フジフィルム スクエア 写真歴史博物館 収蔵品より～ 【2/5から同内容にて再開催】	2021年1月22日(金)～2021年1月28日(木)	●			
太田 真 写真展「JUST MEETS ーめぐり逢いー」	2021年1月29日(金)～2021年2月4日(木)	●			
富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト【写真家たちの新しい物語】 鶴川真由子写真展「LAUNDROMAT」	2021年1月29日(金)～2021年2月11日(木・祝)		●		
「麻布未来写真館」パネル展 ～次世代につながる麻布の記憶～	2021年1月29日(金)～2021年2月11日(木・祝)				●
FUJIFILM GFX/Xシリーズ 新製品「GFX100S」「X-E4」「XF70-300mmF4-5.6 R LM OIS WR」発表記念作品展	2021年1月29日(金)～2021年2月18日(木)			●	
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 幕末明治を写した記録写真 Photographs of the Late Edo / Early Meiji Period ～フジフィルム スクエア 写真歴史博物館 収蔵品より～	2021年2月5日(金)～2021年2月11日(木・祝)	●			
第31回 NHK学園生涯学習写真展	2021年2月12日(金)～2021年2月18日(木)	●	●		●
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 最古の写真技法・19世紀の写真集 ～フジフィルム スクエア 写真歴史博物館 収蔵品より～ (I) フォックス・タルボット「自然の鉛筆」 (II) エドワード・マイブリッジ「動物の運動」	2021年2月19日(金)～2021年2月25日(木)	●			
内藤聡介写真展「碧きキューバ」	2021年2月19日(金)～2021年2月25日(木)		●		
WALL DECOR BY CREATORS (ウォールデコ バイ クリエイターズ) ～写真家・クリエイター7人がおすすめする、お部屋を飾るウォールデコ～	2021年2月19日(金)～2021年3月11日(木)			●	
富士フィルム写真救済プロジェクト「私たちがやってきたこと。そして、わかったこと。」	2021年2月19日(金)～2021年3月11日(木)				●
揚野市子写真展「TRACE ～Place of prayer～」	2021年2月26日(金)～2021年3月4日(木)	●			
富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト 【写真家たちの新しい物語】萩原 れいこ写真展「Heart of Nature」	2021年2月26日(金)～2021年3月11日(木)		●		
第42回 よみうり写真大賞 入賞作品発表展	2021年3月5日(金)～2021年3月11日(木)	●			
FUJIFILM SQUARE 企画写真展『海から見たニッポン』	(1)「海流が育むいのち」～黒潮の力、親潮の恵み～ 阿部秀樹・鍵井靖章・佐藤 輝・関 勝則・高久 至	●	●		●
	(2)「is Blue」鍵井靖章×木村文乃			●	

■写真歴史博物館／開催写真展 計3本

FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展 「100年前にカワセミを撮った男・下村兼史ー日本最初の野鳥生態写真家ー」	2020年7月1日(水)～2020年9月30日(水)
FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展 音楽を奏でる写真たち 木之下 晃「世界の音楽家」	2020年10月1日(木)～2020年12月28日(月)
FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展 ここに人間味あふれる写真家があります。 秋山亮二「津軽・聊爾(りょうじ)先生行状記」	2021年1月4日(月)～2021年3月31日(水)

※緑字は当社主催企画展および他当社共催写真展



佐藤 輝氏(「海流が育むいのち」)



大竹英洋写真展「ノースウッズー生命を与える大地ー」より



大竹英洋氏(左)(大竹英洋写真展「ノースウッズー生命を与える大地ー」)



「ハッブル宇宙望遠鏡 宇宙の神秘を紐解く30年」より



左から川隅 功氏、岡本洋子氏、宮沢あきら氏(FUJIFILM Xシリーズ&GFX作品展)



井津建郎氏(井津建郎写真展「ポンペイ 鎮魂歌 -POMPEII/REQUIEM-」)

施設概要レポート

※データは2020年度実績。2020年度とは2020年4月1日から2021年3月31日を指します。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から臨時休館した2020年2月28日から6月8日までのうち4月1日からの69日間および年末年始を除いた290日が2020年度の写真展開催期間です。

フジフィルム スクエアは2020年度、自社が主催する企画展38本、プロの写真家やアマチュアの写真愛好家の方から応募された作品を厳選して展示する公募展37本、合計75本の写真展を入館無料で開催し、約22万人の方にご来館いただきました。新たな試みとしてWeb動画を14本配信し、総再生回数は合計21,157回を数えました*。ウェブサイトにはインタビュー記事も、合計で8本公開しました。ギャラリートークや講演会で直接出展者と出会う場とは異なりますが、Web上でいつでもどこでも写真家や写真についての理解を深められる機会を提供しました。 ※2021年3月31日現在。広告配信による再生は含まない。

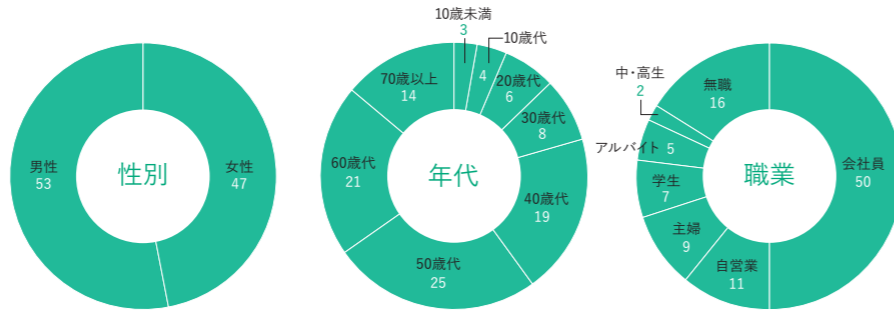
来館実績

来館者数

220,362人
※臨時休館日69日および年末年始を除く
稼働日数290日の来館者

来館者属性

※自社アンケート調査による。
(回答人数3,704人、グラフの単位は%)
2020年度集計期間:2020年6月9日～2021年3月31日



広告、広報

フジフィルム スクエアでは、下記の交通広告で施設および企画展をご案内しています。今年度は新しく写真展紹介動画も配信しました。また、メディアでも数多くご紹介いただいております。当社の媒体であるフジフィルム スクエア公式ウェブサイトや、SNSでも多くの方々に支持されています。

主要交通広告

日比谷線・六本木駅、日比谷線・恵比寿駅、千代田線・乃木坂駅、都営大江戸線・青山一丁目駅、東京ミッドタウン

自社媒体

・フジフィルム スクエア ウェブサイトユーザー数:192,330人
・Facebook, Twitter 投稿件数:445件

写真展紹介動画

- ・フジフィルム スクエア 企画写真展
「ハッブル宇宙望遠鏡 宇宙の神秘を紐解く30年」紹介動画
- ・フジフィルム スクエア 企画写真展
「海流が育むいのち」～黒潮の力、親潮の恵み～ 紹介動画

主要メディア掲載

新聞:朝日新聞、産経新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞、東京新聞、中日新聞、長野日報、日刊県民福井／雑誌:『週刊女性』、『Marine Diving』、『pen』、『Weeklyプレイボーイ』、『旅の手帖』/カメラ紙(誌):『アサヒカメラ』、『カメラマン』、『CAPA』、『コマースシャルフォト』、『デジタルカメラマガジン』、『日本カメラ』『風景写真』/フォトコン/ウェブサイト:朝日新聞デジタル&M、infoseekニュース、グノシー、東洋経済オンライン、PRESIDENT Online、毎日新聞WEB、Yahoo!ニュース、読売新聞オンライン、livedoor ニュース、LINE NEWS

来館者、出展者から寄せられた声

フジフィルム スクエアには来館者からアンケートで感動の声が多く寄せられます。また、出展者からも展示を通して発見したことや、来館者との交流についての感想など、たくさんのお声をいただきます。このように、フジフィルム スクエアで写真を通じて「こころ彩られ」、紡ぎだされた言葉の一部をご紹介します。 ※お寄せいただいた声と写真の被写体の方は関係ありません。

《来館者の声》



大きなサイズで見られる写真展はやはり素敵だと思いました。より撮影された場の雰囲気や息遣いが伝わるような気がします。これからも素敵な写真を楽しみにしています。

今回、子供と夏休みに来ました。年齢問わず誰もが楽しめて、常設のカメラの歴史と貴重なカメラの展示も見ることができ良かったです。スタッフの方がとても親切に対応してくださりました。

思いがけず、カメラの歴史を見ることができました。子供たちも興味しんしんで、楽しい時間を過ごすことができました。

無料なのにいつも見応えある作品が多いから、近くに来る時必ず立ち寄るようになりました。これからも期待しています。

お金を取らずに展示を見せてくれるのはありがたい。企業のスタンスを感じる。

さすがに綺麗な写真ばかりで素晴らしいかったです。

初めて来たのですが、ますます写真に興味を持ちました。

写真が綺麗なため、自分でも写真を撮りたくなる。

写真の奥深さを感じました。

動画上映がとても面白かった。ありがとうございました。

写真の力を感じます。



《出展者の声》

会場、プリントが素晴らしく、スタッフの皆さんが優しく、そしてたくさんの方に見ていただくための、宣伝やさまざまな工夫が凝らされていて感動ばかりでした。

写真を見た方から「元気がでた」「生きてよかったと感動した」等の心温まる感想をいただけて本当にうれしく思います。

コロナ禍の中、「半年ぶりに電車に乗って写真を見に来た。感動した」というお客様のことは忘れられません。こういう時だから「元気な」「明るい」作品群を展示できて良かった。

来館者は写真への理解が深い方が多く、1点ずつ時間をかけてご覧になられました。写真や絵を自らやっておられる様子の方に、次々と質問をいただき、張り合いを感じました。

作品を見た来場者から「すごい」「どこで撮ったの?」など声を聞かせていただけて楽しかったです。

フジフィルム スクエアの明るくオープンな空気感はスタッフのホスピタリティの高さからも作られているんですね。

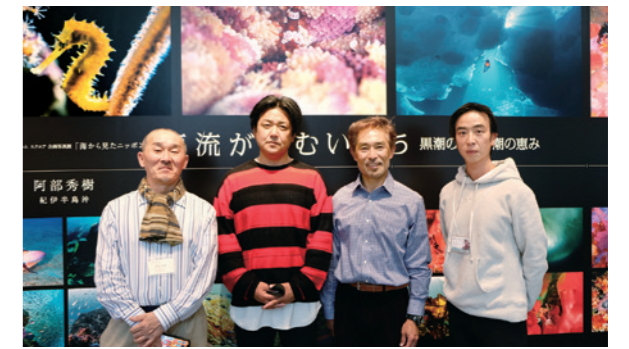
写真集の出版と個展の開催をひとつの目標においてきましたので、一定の達成感と大いなる虚脱感を感じています。これをひとつの節目として、次の人生を考えていこうと思っています。

美しく仕上がったプリントに感動しました。写真をプリントすることは良いものだ改めて思いました。

想像以上の大迫力パネルと、あまりにも美しいプリントに圧倒されました。

Webより写真展の方が作品一点一点の迫力が伝わる。

動画はSNSなどで拡散され、事前のPR効果が抜群だったと思う。



左から阿部秀樹氏、鍵井靖章氏、監督 工藤孝浩氏、佐藤 輝氏(「海流が育むいのち」)



大竹英洋氏(右)(大竹英洋写真展「ノースウッズ-生命を与える大地-」)

掲載記事例「フジフィルム スクエア 写真歴史博物館」読売新聞夕刊(2020年4月7日)

施設案内



富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・2

フジフィルム スクエア主催の企画展とプロアマ問わずご応募いただく公募展を開催。



富士フィルムフォトサロン 東京 スペース3

最新の富士フィルム製品やプリントサービスを使用した写真や若手写真家企画展を展示。



富士フィルムフォトサロン 東京 ミニギャラリー

企画写真展や地域と連携した展示等を開催。



写真歴史博物館

貴重なアンティークカメラや富士フィルムの歴代カメラの展示に加え、歴史的に価値のある写真を展示する企画展も定期的で開催。



タッチフジフィルム

写真をもっと楽しく! ご提案コーナー

「チェキ」や富士フィルムのミラーレスデジタルカメラ「GFX・Xシリーズ」、交換レンズなどの最新製品を展示しています。また、スマートフォンからも簡単にご注文いただけるプリントやフォトブックバリエーション、「WALL DECOR」、写真を使った「プリント&ギフト」などを展示。



ASTALIFT ROPPONGI

フジフィルム ヘルスクエアショップ

「アスタリフト」をはじめ、長年の写真分野の研究開発で培った独自の技術を応用した富士フィルムのスキンケア化粧品・サプリメントを取りそろえています。
TEL.03-6271-3356(10:00~19:00)



FUJIFILM SQUARE

フジフィルム スクエア

開館時間 10:00~19:00 (入館は18:50まで)

無休(年末年始を除く) / 入館無料

※やむを得ず臨時休館する場合がございます。ウェブサイト・電話でご確認ください。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3 東京ミッドタウン・ウェスト 1F

TEL.03-6271-3350(10:00~18:00)

<https://fujifilmsquare.jp/>

都営大江戸線「六本木駅」8番出口と直結

東京メトロ日比谷線「六本木駅」東京ミッドタウン行き地下通路で徒歩4分

東京メトロ千代田線「乃木坂駅」3番出口より徒歩5分



富士フィルムフォトサロン、写真歴史博物館は、2021年、公益社団法人企業メセナ協議会より、「芸術・文化振興による社会創造活動」として「THIS IS MECENAT 2021」の認定を受けております。



- ・本活動報告書の2020年度とは2020年4月1日～2021年3月31日を指します。
- ・本活動報告書に掲載されている「主要メディア掲載」および「ご来館者数」のデータは自社調査に基づくものです。
- ・「来館者数」は写真展期間中のフジフィルム スクエア全体のご来館者数の合計です。
- ・「来館者の声」および「来館者属性」は、2020年度に開催された写真展期間(2020年6月9日から2021年3月31日)に実施された自社アンケート調査に基づくものです。
- ・本活動報告書では、銀を含む化学薬品をゼラチンに溶かして塗布した写真用紙に、ネガフィルムなどを通して露光し、現像処理して得られる写真プリントのことを「銀写真プリント*」と表記しています。
※フィルム・デジカメ画像を写真店やラボに依頼してプリントする、従来からの『写真(銀塩方式)』プリントを示す呼称
- ・本活動報告書に掲載されている写真は、新型コロナウイルス感染対策を十分に講じたうえで撮影しています。
マスク未着用の写真は撮影時のみマスクを外しています。
- ・年間を通じた写真展運営の協力会社は、下記のとおりです。
展示作業:株式会社フレームマン
展示物・告知物制作:富士フィルムイメージングシステムズ株式会社
運営協力:富士フィルムビジネスエキスパート株式会社

フジフィルム スクエア 2020年度 活動報告書

発行日: 2021年7月

発行・編集:富士フィルム株式会社

コーポレートコミュニケーション部 宣伝部

〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3

発行者:青木宇雄

デザイン:株式会社ラジアン

制作:株式会社ジョーメイ

©富士フィルム株式会社 禁無断転載